



真価を示す

PLUS ULTRA

75th

2026 Miyazaki

一般社団法人宮崎青年会議所

2026年度

総合基本資料





一般社団法人宮崎青年会議所
第75代理事長 山崎 隆太郎

2026年度スローガン



真価を示す

PLUS ULTRA

目次

● 計画書

| | |
|---------------------------------|----|
| 2026年度 理事長所信 | 2 |
| 2026年度 役員一覧・委員長方針・事業計画 | 7 |
| 2026年度 組織図 | 23 |
| 2026年度 会議体・委員会配属表 | 24 |
| 2026年度 年間スケジュール表 | 25 |
| 2026年度 収支予算書 | 26 |
| 2026年度 出向者一覧表 | 28 |
| 2026年度 一般社団法人宮崎青年会議所 参加・協力団体一覧表 | 29 |

● 報告書

| | |
|--|----|
| 2025年度 理事長事業報告書 | 31 |
| 2025年度 委員会事業報告書 | 32 |
| 2025年度 出向者報告書 | 66 |
| 2025年度 収支決算報告 | 69 |
| 2025年度 監査報告書 | 73 |
| 2025年度 会員出席率一覧 | 74 |
| 一般社団法人宮崎青年会議所 褒賞受賞一覧表 | 77 |
| 姉妹JC一覧表 | 77 |
| 一般社団法人宮崎青年会議所がスポンサーJCとなって設立されたJC | 77 |
| 会員分布表 | 78 |
| 歴代理事長 | 79 |
| 物故会員 | 80 |
| 2026年度 公益社団法人日本青年会議所 基本計画 | 81 |
| 2026年度 公益社団法人日本青年会議所 事業計画 | 82 |
| 2026年度 公益社団法人日本青年会議所 組織図 | 83 |
| 2026年度 公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会 会長意見書 | 84 |
| 2026年度 公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会 組織図 | 86 |
| 2026年度 公益社団法人日本青年会議所 九州地区 宮崎ブロック協議会 基本方針 | 87 |
| 2026年度 公益社団法人日本青年会議所 九州地区 宮崎ブロック協議会 組織図 | 90 |



真価を示す

PLUS ULTRA

一般社団法人宮崎青年会議所 2026年度 理事長所信

第75代理事長 山崎 隆太郎

はじめに

青年会議所とは。

入会以来、自問自答し続けてきた壮大なテーマです。

私の8年というJC生活では短く、本質を理解するにはまだ早いのかもかもしれません。しかし、最初はよく分からない。から始まり、1年ごとに自身に与えられた役割、職務を全うすることで、見えないものが見えるようになり、青年会議所の魅力を体感でき理解が深まってきました。今私はこの素晴らしい組織を正しく継承していくことに意義を感じています。

「JCしかない時代から、JCもある時代になった。」と言われることが増えてきましたが、私は間違えていると考えます。この団体には他団体との明確な違いがあります。

常に、自分ではない誰かを主語に活動していること。恒久的世界平和という果てしない理想を掲げ、細分化した地域に目を向け地域課題を解決すること、その過程でリーダーシップを開発するという2つの大きな目的は唯一無二であります。

例えば、経済団体である側面から、地域にボランティアとして貢献すればいいという誤解。

例えば、青年団体という特性上、大きすぎる夢を描き、課題対象的的を絞り切れずイベント要素の強い効果を生みづらい事業を実施。など。

本質を捉えようとせず、容易い事業、方法を選択する場面が増えたことにより組織のアイデンティティがぼやけてしまったのだと考えます。

「失敗してもいい団体」それは結果がでなくてもいい。という意味ではなく、必ず、わずかでも課題が解決されるべく結果をださなければなりません。その手法やプロセスの失敗は次につながるという意味であると解釈しています。そこまで真剣に取り組むからこそリーダーシップは開発されるのです。

これは近年、全国のLOMで散見されるJCの変化ですが、そんな今だからこそ真価を示さなければこの組織に価値はなくなります。

中にはそんなに、JCを頑張れる人は一部の人間だと笑われるかもしれません。しかし、そんなに頑張れる人なんて端からいません。自身への負荷強度を少しずつ高めた結果でしかなく、その過程でJCの理念やベクトルが理解でき、誰かのためだからこそ“やりきる”原動力を得られ、推進した結果自分の成長を実感できる。だからこそ、また挑戦したくなるものであると体験をもって痛感しています。

この、なんとなくの理解が確信に変わったこの経験を言語化して共有できる人間を増やし、持続性のある組織であるために、時代が変わっても継承しなければいけない青年会議所の使命を重く受け止めています。

出向の機会

私は2019年に入会をいたしました。全国大会宮崎大会を主管した翌年であり、先輩方は全国大会のために莫大な時間と労力を注がれてこられたことが雰囲気からも伝わってくるほどでした。

全国大会を知らない私としては、その経験に最大限の敬意を払いながらも、何処か、同じチームではない、よそ者感を感じたことを記憶しております。幸いにも先輩方から全国大会までのお話をたくさん聞かせていただいたことで、自分なりに全国大会を主管するということがどんなものなのかを考えるようになりましたが、体験していない私以下の世代はどこまでいっても聞いた話しに過ぎず、身近にいる先輩方との経験の差が埋まらない悔しさもあり、積極的に出向に挑戦しようと思えるようになりました。

ブロック、地区、日本と出向をさせていただく中で、当初は新しい出会いが楽しくてのめり込み、気づいたころには少しずつ職責の大きさに立ち向かうことに真剣になり、最後には掲げる成果目標の大きさに潰されそうになりながらも、仲間と理想を達成させる喜びを分かち合うとても尊い経験をしました。そのすべての経験が自身の尺度を大きく広げてくれたと感じています。今となっては、全国大会を主管する意義やご苦勞を理解できるようになりました。あらためて関わられた全ての先輩方に尊敬の念が増すばかりで、そこで得た経験はしっかりと継承していかなければならないと襟を正す思いであります。

振り返れば、出向を薦めていただいた先輩方には当初からレールを敷いていただいていたのだと深く感謝しております。宮崎青年会議所は全国大会以前より、多くの出向者を輩出してきました。先輩方もひとつずつの出向の経験をもとに成長され、LOMに還元してこられた結果、今に至りますが、LOM内のアカデミー会員の割合が6割近くに増えている今、LOMが築いてきた歴史、伝統を次世代に残していくために経験をつないでいく責務があります。LOMのメンバーに出向の経験を共有し、ひとりでも多くのメンバー成長の機会を提供し続けるべきであると考えます。

宮崎青年会議所の未来を見据えて

・出席率向上

2026年度の卒業生数は直近10年間において3番目に多く24名おります。2021年より続く、会員純増の流れを途絶えさせないためにも会員拡大は最重要項目となります。しかしながら、例年拡大数こそ成功傾向にありますが、近年アカデミー比率が上がったことにより、JCへの理解が乏しいままに勧誘をする場面が見られ、新入会員の入会后事業参画への積極性が二分されている現状があります。まずは、会員全員がJCの本質、目的を理解して伝えられるよう拡大活動をパッケージ化してリクルーティングの質を平準化します。また、新入会員の仮入会后にはアカデミー比率が約58%となる見込みであり、継続的にアカデミー事業と新入会員育成事業は急務であります。本質を考えると、自身の自己研鑽のためにもLOMでの理事経験は最低限必須であるという意識を醸成し、後にキャリアアップを目指しやすくなる枠組みとして、経験値を増幅させるアウトプット型の事業を展開してまいります。

一方で、直近3年において例会出席率は平均約66%を推移しており、理事役員数を除いて考えると既存会員のスリープ化は顕著であります。2026年度は委員会数を増やすことで、委員会定数を減らし委員会内でのコミュニケーションをより濃密にすることで出席率を10%向上させます。多様性を考えるあまり薄れてしまっている出席に対する優先順位を向上させるためにも、委員会単位での連絡調整をデジタルツールに頼り過ぎない、深い人間関係の構築が必要であり、委員会の在り方を共有し運営面から見直します。

・人財育成

我々にはリーダーシップの開発という目的があります。事業を共に構築する市民の方は勿論ながら、一人ひとりが次なるステップアップを目標とする組織でなければなりません。昨今、理事やそれ以上の役職に就くことがネガティブな面のみ取り沙汰され、該当者の消極的姿勢は課題のひとつであります。先述のとおり、課題を解決するという確固たる使命を理解させ、事業構築を通して課題対象者からの適切な評価が得られることで、承認、評価され、矜持が得られるものと信じています。人財育成に重点を置く意味でも、役職者のそれぞれの職務を明示し、組織的に育成を実行してまいります。

より良い宮崎を目指して

2021年度に次なる5年の方向性を示すNEXT5を策定しました。SDGsを軸に、社会、経済、環境と、地域、人財、組織をテーマに24項目からなる、誰も取り残されない地域、労働生産性を向上させる地域、持続可能で安全な地域の実現を掲げ活動してきました。現在、検証中ですが、事業を実施するうえで対象者を広く設定している傾向にあり、事業内容の良し悪しに関わらず、副産物的にいくらかは地域に貢献できているものとして事業を終えているケースが多いため課題解決につながっていないことや、正しく検証されてないこと、そもそも認知されていない事業の方が多いような検証結果が得られました。出てきた課題点に向き合い、2026年度に新たな5年に向けた中期計画を策定いたします。

また、2025年には宮崎市の総合計画も改定され2034年までの10年計画が発表されました。

2018-2024年度を対象に策定された第5次総合計画との比較でも見て取れるように、開かれた都市を目指し、挑戦や成長を掲げています。子供をはじめ市民を取り残さないという意味がより明確化されました。少子高齢化をはじめ、地域が抱える課題は多岐にわたりますが、行政が捉える課題に沿い、青年らしく圧倒的な行動力を発揮し地域課題の解決に取り組む所存でございます。我々の解決すべき課題は行政課題よりもさらに細分化された問題であり、全てを解決できる訳ではないと考えます。地域における多様な主体と人材が互いに影響しながら、地域課題の解決に資するイノベーションを創出することで、小さな成功体験を積み上げ、ロールモデルとなるべく事業を実施する必要があります。

- ・ 時代の変化を見据えて成長し、世界に開かれているまち
- ・ 多様性を認め、互いに支え合うみんなに開かれているまち
- ・ 明日への希望にあふれ、未来に開かれているまち

2026年度は総合計画にあるこの3つの基本構想を軸に地域課題解決、青少年育成、国際課題に対してJCが取り組むべき課題抽出を適切に行い、運動を展開いたします。

正しい価値を的確に広げる

多くの LOM で広報の重要性から SNS の運用を開始して久しいですが、その多くは事業や例会の実施報告に近い形でアップロードされているように感じます。新入会員の拡大のきっかけや、適切なパートナーの発掘、フォロワーとの協力体制の構築の為には、我々の想いに共感していただくことこそが重要であり、事業・運動の計画段階から実施にむけて、課題を発掘し、問題を提起。理念や趣旨、想いを広報していき共感する人を増やす必要があると考えます。また、ブランディングは専門的スキルを持って発信しないと効果が薄れるという点も課題であり、専門知識を有するメンバーに監修していただき、ブランディング向上に寄与する広報の基礎を理解、作成することで実施報告型の広報から昇華させます。

JC の山 / 周年記念事業

1977 年、当時 LOM で行っていた奨学金事業の持続性の観点から、高値で取引されていた木材に着目され、加江田の市有地 2ha に 4000 本の樹木を植林されました。それから管理を目的とした草刈り作業を含め、青少年育成に寄与する事業においても活用されてきた JC の山は 2026 年度、50 年の節目をもって伐採、売却の計画を立てております。このような運動を起こそうとした精神性こそ継承すべきであり、資金を一過性のものに使うことは相応しくなく、定款第 53 条の規程に基づき、本来の目的であった奨学金と用途に近い形で、青少年育成に寄与する事業を創設すべきであると考えます。

75 周年の節目

1951 年 10 月 22 日。我々の純粋な正義感と、目的完遂の確固たる実行力とがこの茨の道の最尖端を進んでこそ始めて成果を期待出来ると自覚し、正しきを愛し、活動に富んだ純血青年が同志相寄り相互の啓発と社会への奉仕に努め、経済社会の現状を研究して、その将来進むべき方向を明確に把握し本市経済の強力な推進力たらん(趣意書原文)として 47 名のチャーターメンバーにより、全国で 26 番目の青年会議所として誕生しました。先輩諸兄姉はこの創始の想いを受け継ぎ、個人の修練、社会への奉仕、世界との友情、の三信条のもとリーダーシップの開発と、宮崎により良い変化をもたらすべく運動を展開されてきました。創立から 75 年たった今、この理事長所信をしたためながら創始の精神が受け継がれていることを実感しています。時代の変化にかかわらず、不変の精神を正しく承継する責務を果たしてまいります。

結びに

私には、7歳と5歳になる子供がおります。

子供たちにはJCに時間を取られ父親が不在だと思われたくなく、パパはヒーロー活動をしていると話しています。無邪気な子供は、昨日はどんな敵と戦ったのかと興味津々に聞いてきますので話を合わせ、時には、わざわざ自宅の窓から遠くを眺め、何をしているの?という質問に対して困っている人がいないか探している。と芝居を打つこともあります。付き合ってくれているのは子供の方かもしれませんが、子供たちはパパがヒーローだと喜んでくれています。

面白いもので、言い続けているうちに本当にそうだといいなと思うようになるものです。

私は今誰かを助け、役に立てるヒーローだと思って活動しています。

ものの例えですが、そのくらいの信念がなければ行動できません。

自己成長も、地域をより良くする運動の展開も。自分のためだけなら頑張れません。

誰かのために、地域のために。だからこそ今の自分を超えてください。

ブルス ウルトラ
PLUS ULTRA

さらに向こうへ

【一般社団法人宮崎青年会議所 2026年度スローガン】

真価を示す PLUS ULTRA

役員一覽

理事長・直前理事長



理事長 山崎 隆太郎



直前理事長 野村 翔悟

役員一覧

副理事長・専務理事



副理事長 高畑智穂



副理事長 中村友哉



副理事長 椎葉哲也



副理事長 甲斐智大



副理事長 二宮雅和



専務理事 内門洋稀

役員一覧

顧問・監事



顧 問 星 山 剛



顧 問 河 野 宏 輝



監 事 後 藤 健 太



監 事 矢 野 拓 人

役員一覧

常任理事



常任理事 高山 祥平



常任理事 松田 陵治



常任理事 森田 栄作



常任理事 川越 貴晃



常任理事 田所 伸吾



常任理事 久松 大夢

組織グループ

会員拡大委員会
委員長 小園 敏輝



| | |
|-------------|---|
| <p>基本方針</p> | <p>適切な人財を発掘し理念を共有することで組織の基盤を築き、一人ひとりの成長が学びと挑戦を循環させ、時代の変化にも揺らがない持続可能な組織を確立することを目指します。</p> |
| <p>設置背景</p> | <p>所属メンバーの縮小により事業規模の維持や新たな挑戦の実現が難しくなることが懸念されています。特に2026年度は卒業を迎えるメンバーが多く、例年と同じ拡大目標では、翌2027年度の期首会員数が純減となる可能性があります。こうした状況の中、拡大委員会は全会員が一体となって拡大に取り組むための中心的役割を担います。自ら率先して入会候補者へアプローチするのはもちろん、他のメンバーが拡大活動を進めやすくするための支援も行います。また、新たに入会したメンバーが早期に退会することのないよう、活動への参加を後押しし、安心して続けられる環境づくりにも力を注ぎます。単なる人数の拡大にとどまらず、理念の共有や仲間とのつながりを大切にしながら、共に成長できる組織を目指していきます。</p> |
| <p>設置目的</p> | <p>本委員会は、2021年度より続く会員純増の流れを途絶えさせることのないよう、会員拡大を最重要課題として位置づけます。併せて、新入会員が将来的に組織を先導できる人財へと成長できるよう、JC理念の理解を軸とした新入会員の育成を目的として設置します。</p> |
| <p>事業概要</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 会員拡大におけるJC理念の共有 理念の共有とは、単に同じ内容を理解することにとどまらず、各自が自らの体験や学びを言語化し、他者へと伝えることを指します。メンバー一人ひとりに理念を浸透させることで、JC運動を最大化できる組織へと発展することを目指します。 2. 新入会員育成 リーダーシップの開発と成長の機会をあらゆる青年に提供するためには多くの会員が必要であり、同志を募ることが必要です。2026年度は卒業生が10年間で2番目に多い点と第6次宮崎市総合計画に対応できる組織であるために50名の拡大目標を掲げます。そのためにシニアとの連携の強化やメンバー一人ひとりがリクルーティングできる仕組みを構築します。 新入会員育成事業 3. 正会員認証式を迎えるにあたり、特別な理由がない限り退会者0人を目指します。3回のオリエンテーションにてJCの理念を学び、活動内容が地域と自分にどのような影響を与えるのか理解できるようにします。業務連絡のような案内を行うのではなく、複数人でのフォロー体制を構築し、誰も取り残さない育成を行います。 JCフェスタ2026 in 延岡への参加推進 4. JCフェスタの目的や位置付けを理解いただき、事業構築に役立てられるよう、ファンクションやフォーラムへの参加促進を行います。 シニア担当 5. 宮崎JCシニアクラブと適宜に連携を行い、相互協力を推進します。 |

組織グループ

指導育成委員会
委員長 浦部 秀祐



| | |
|-------------|---|
| <p>基本方針</p> | <p>組織グループは、会員拡大と人材育成を戦略的かつ有機的に連携させ、宮崎青年会議所の運動の根幹である「理念の共有と実践力の強化」を目的として設置されます。本グループでは、拡大委員会が地域や対象者との接点を創出し、“共感”に基づいた拡大活動を展開するとともに、育成委員会が入会後の理念浸透やリーダー育成を段階的かつ体系的に担うことで、メンバー一人ひとりが自立して行動できる力を育みます。また、委員会間の連携を密にすることで、入会から定着・成長までを一貫して支援する体制を整え、理念に共感し、地域課題の解決に挑む“誇れるJCメンバー”の輩出を推進します。ひいては、宮崎JCの信頼性と存在価値を高め、「このまちにJCがあってよかった」と思われる地域共創型組織の実現を目指します。</p> |
| <p>設置背景</p> | <p>我々は、会員一人ひとりがJC運動の理念を正しく理解し、自らの言葉でその魅力を発信できるリーダーへと成長することを目指します。しかしながら、組織の理念やJCの掲げているリーダーシップを正しく理解する機会を得ないまま活動を行っているメンバーも存在しています。現状を顧みると、メンバーがJCのあるべき姿を再認識し、理念に基づいた考えを第一に事業を構築・推進できる組織を確立させる必要があると考えられます。</p> |
| <p>設置目的</p> | <p>メンバーのJCに対する帰属意識や参画意欲を高め、密な連携のもとで事業を構築・推進できる組織を目指します。そのために理念教育に注力し、メンバー全員がJCの掲げる理念や活動方針を理解し他者にそれらを伝えることができるレベルに引き上げることで地域社会を牽引するリーダーを増やしていくことを目的とします。</p> |
| <p>事業概要</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. アカデミー育成事業 JCの理念教育を主軸とした指導育成事業の展開を行います。 2. 宮崎神宮大祭への参加推進 宮崎神宮大祭についての大意を理解したうえでメンバーが意欲的に参加できるように誘致を行います。 |



地域課題解決委員会
委員長 檜垣 泰介

| | |
|-------------|--|
| <p>基本方針</p> | <p>誰もが安心して、未来に希望が持てる地域の共創を目指します。</p> |
| <p>設置背景</p> | <p>宮崎青年会議所はこれまで、「明るい豊かな社会の実現」という理念のもと、地域の課題解決に寄り添いながら、まちづくり・青少年育成・地域活性化に関する多くの事業を展開してきました。しかし近年、社会環境の変化とともに地域を取り巻く課題はより複雑化しています。人口減少や地域コミュニティの希薄化、家庭・学校・企業のつながりの弱体化など、かつてのように地域全体で子どもを育てる社会が揺らぎつつあります。宮崎市第六次総合計画でも、「地域と学校との協働の推進」が重点施策として掲げられており、教育現場と地域社会が連携しながら次世代を育てることが、持続可能な地域づくりに欠かせないとされています。今こそ宮崎青年会議所が再び地域と学校と企業をつなぐ“行動の主体”となるべき時だと考えます。2026年度に設置する「地域課題解決委員会」は、これまで宮崎青年会議所が積み重ねてきた地域との信頼関係を基盤に、学校と地域が共に学び合い支え合う新たな協働モデルを創出することを目的とします。子ども達の教育や成長だけでなく指導を行う教員にも目を向け、抱えている悩みや現状を知り解決することでより高水準での地域と学校との協働が実現できると考えました。そのためにも宮崎青年会議所が学校と企業の両視点に立ち、持続可能なまちづくりを実現する運動を起こす必要があります。</p> |
| <p>設置目的</p> | <p>本委員会は学校と地域の協働を推進するうえで、教員の役割を課題に据え、教員が抱える悩み・不安を取り除く事が課題解決の一步と考えます。教員同士が互いの経験や価値観を共有し、課題や悩みを話し合える交流の場を提供する事で、教員が安心して生徒と関わることのできる環境を整えます。それに加えて民間の意見や現状を踏まえた課題解決の方法を模索することで、教員がこれまで以上に生徒へ多様な経験や価値観を伝えられるようにし、社会との連携によって教育の質が少しでも向上することを目的とします。</p> |
| <p>事業概要</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員と社会課題を考える機会の創出 宮崎市で働く教員と青年会議所メンバーが社会の求める人財や、生徒の現状などを共有し、社会の課題について話し合う場を設け、それぞれの価値を高め合う機会を創ります。 2. 中間懇親会 例年中間懇親会には、来賓やシニアの先輩方が多くご出席されます。今年度の宮崎JCがどのような運動を展開したのかを報告します。 3. 京都会議参加推進 各会議体・委員会の事業における成果を高める為、渉外交流委員会と協力して京都会議参加を推進します。日本青年会議所の方針を聞くだけでなく、メンバー同士が交流する機会をつくり親睦を深めたうえで、学んだ知識や経験をLOMの活動に反映し、地域を牽引する組織を目指します。 |



| | |
|-------------|--|
| <p>基本方針</p> | <p>誰もが安心して、未来に希望が持てる地域の共創を目指します。</p> |
| <p>設置背景</p> | <p>近年、青少年を取り巻く環境は多様化・複雑化しており、家庭や学校だけでなく、地域社会全体での支援が不可欠となっています。特に、価値観の多様化や進路選択の難しさ、地域とのつながりの希薄化などが課題として挙げられます。宮崎市総合計画においても「次世代を担う青少年の健全な育成」と「地域と学校・家庭の協働」が重要施策に位置づけられており、行政のみならず民間団体や地域組織が主体的に取り組む必要性が示されています。</p> |
| <p>設置目的</p> | <p>【青少年の健全育成】 地域と学校・家庭が協働し、次世代を担う青少年に主体性と社会性を育みます。</p> <p>【地域とのつながり強化】 地域社会との関わりを深め、青少年が安心して成長できる環境を整えます。</p> <p>【学びと体験の機会提供】 キャリア教育や交流活動を通じて、将来を考える力と実践的な経験を得られる場を創出します。</p> |
| <p>事業概要</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトバンクホークス交流事業 プロスポーツとの交流を通じて、青少年に夢や目標を持つきっかけを提供します。子どもたちがプロ野球選手と交流することで、社会に対し、「前向きに挑戦する心」や「諦めない心」を育みます。 2. ひなた中学校(昼間部)の教育支援事業 新設校であるひなた中学校に対し、地域と連携した教育支援を行い、青年の健全な成長をサポートします。生徒一人ひとりが自分の将来を考え、主体的に学ぶ姿勢を育みます。 3. 全国大会参加推進 10月に兵庫県神戸市で行われる全国大会への参加推進を行います。今年度の日本青年会議所の活動報告を聞き、次年度以降のLOM事業に反映します。また、卒業生との思い出も創ります。 |



グローバル共生委員会
委員長 井手 宏

| | |
|----------------|---|
| <p>基 本 方 針</p> | <p>地域社会の国際的な多様性を尊重し、共生社会の実現および地域の国際的な魅力の向上。</p> |
| <p>設 置 背 景</p> | <p>宮崎市において在住外国人は年々増加しており、言語や文化の違いから、日常生活において不安や課題を抱えるケースが多くあります。その結果、地域社会との接点が少なくなり、孤立や経済的不安を抱える要因となっています。また、地域住民との交流機会が不足していることから、相互理解や共生意識の醸成も十分に進んでいない現状があります。</p> <p>国際交流の事業を展開することは、地域全体の多様性を尊重し、誰もが暮らしやすく、また働きやすい環境をつくるために不可欠です。特に言語支援やスポーツ、食、文化的交流を通じて自然な関わりが生まれることで、相互理解が深め、多文化共生社会を目指します。</p> <p>そのため、本委員会では「ワールドテラス」「在留外国人財職場体験事業」「世界会議への参加推進」を柱とした事業を実施し、持続可能な多文化共生社会の実現に向けた基盤づくりを推進する必要があります。</p> |
| <p>設 置 目 的</p> | <p>本委員会は、地域の未来を担う青年としての責任と使命感のもと、多文化共生社会の実現を目指し、国際交流を通じた持続可能な地域づくりを推進することを目的とする。</p> <p>地域に在住する外国人と日本人市民が互いの文化を尊重し合い、共に成長できる機会を創出するとともに、国際交流事業やスポーツ交流、文化体験活動を通じて友情と信頼を育む。</p> <p>また、在住外国人が抱える就労機会の課題を把握し、課題の解決に向けた実践的な取り組みを行うことで、誰もが安心して暮らせる社会の実現に貢献する。メンバーは、この活動を通じて国際的視野を広げ、リーダーとしての資質を高め、次代に誇れる地域の創造を目指す。</p> |
| <p>事 業 概 要</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. ワールドテラス ワールドテラスは、音楽・食・スポーツ交流を通じて国際交流することで相互理解を深め、多文化共生社会の実現を目指すと同時に、ゴミの分別や防災体験をさせることで在住外国人を取り巻く社会課題を解決することを目的とした国際交流イベントです。 2. 在留外国人財職場体験事業 大学や専門学校で就学する外国人財は就職で約8割が県外へ流出しています。少しでも宮崎に残っていただくためにも、企業、在留外国人財が相互に理解を深めることのできるよう職場体験事業を実施します。 3. 世界会議(フィリピン)への参加推進事業 世界会議とは、世界中のJCIメンバーが一堂に集まる最大規模の国際大会です。世界中のNOMや日本青年会議所の運動を再確認し、メンバー同士の絆を深める貴重な機会となります。 |



対外国際交流委員会
委員長 中村 匡宏

| | |
|-------------|---|
| <p>基本方針</p> | <p>地域社会の国際的な多様性を尊重し、共生社会の実現および地域の国際的 魅力の向上。</p> |
| <p>設置背景</p> | <p>宮崎市第六次総合計画では、将来像として「挑戦し、成長する開かれたまち ～ OPEN CITY MIYAZAKI～」を掲げ、世界にひらかれた都市づくりを重要な 柱としています。宮崎市は豊かな自然環境、温暖な気候、食文化やスポーツ資 源など、国際的に訴求力のある地域資源を有していますが、外国人旅行者数 や国際交流の機会は全国的に見てまだ伸びしろが大きい状況です。 ①インバウンド ②多文化共生の基盤づくり ③次世代の国際感覚の育成 を通して、宮崎市の発展に寄与することを目指します。</p> |
| <p>設置目的</p> | <p>宮崎市の子供たちに国際交流の機会を提供し、国際感覚の育成を行います。 宮崎市の行政、学生、企業とともにインバウンドのコンテンツ制作を通じて、郷土 の魅力を再発見します。 LOMメンバーに国際交流の機会を創出し、国際感覚の育成、成熟に繋がます。</p> |
| <p>事業概要</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルチャレンジ推進事業の実施 宮崎市の学生を対象に同年代の外国人を受け入れし、実践的な国際感 覚の育成の機会を提供し、参加した学生が主体的に国際感覚を培う時間 を増やします。また、宮崎市の行政、学生、企業とともにインバウンドのコン テンツ制作を通じて郷土の魅力を再発見します。 2. JCI ASPAC(新潟)参加促進 社業や宮崎LOM事業において、国際交流の機会が限定的であり、宮崎LO Mメンバーに対して、国際交流の機会を提供し、自己成長や社業の成長 に繋げることを目的とします。 3. ポートJC50周年記念訪問 姉妹JCであるポートJCとの関係強化及びその他岐阜JC・香港APEX JCIとの関係構築を目的とする。 |



| | |
|-------------|---|
| <p>基本方針</p> | <p>1 創始の精神の承継 1951年の設立趣意書に込められた「正しきを愛し、行動で地域を変える精神」を、時代の変化にかかわらず次世代へ継承する。 2 記念式典と記念事業の実施 75年の歩みを支えたシニア・メンバー・他LOMの皆様に感謝を表し、その成果と意義を広く発信する。 3 次なるNEXT5の抽出 地域におけるロールモデルとなる事業を展開し、次の5年を見据えた方向性を示す。</p> |
| <p>設置背景</p> | <p>本年は宮崎 JC 設立 75 周年という節目の年であり、これからの方針を今一度見つめ直す年となっています。宮崎JCでの運動が社会をより良くするものになるためには、対内だけでなく対外との足並みを揃え連携を図る必要があります。公益社団法人日本青年会議所で開催している ONE IMPACT SEMINAR の中で、良い運動とは関係団体が事業実施後も自分達で継続したいと言われる運動だと定義しています。関係各所の方に来訪いただき、これまでの歩みとこれからの方針を発信し、宮崎JCが単体で運動を実施するのではなく、連携して運動を展開していくための機運を高める事業として式典が必要となります。そのような重要な式典を滞りなく開催するためにも75周年特別会議が企画・運営・実施する必要があります。</p> |
| <p>設置目的</p> | <p>式典を通してこれまで先輩たちが紡いできた宮崎JCの歴史を振り返るとともに、今後のLOMの方針を対内外で共有し、産官学の連携をより一層強固にして運動の効果を最大化させることを目的とします。</p> |
| <p>事業概要</p> | <p>1. 新年挨拶会の実施 本事業は例年1～2月に実施している式典であり、その年の理事長が所信を表明し対内外にその年の指針を示す場として設けられています。青年会議所は単年度制が大きな特色であり、年によって運動や方針が違います。現役のメンバーにおいても他の会議体や委員会がどのような事業を行うのか知らない、いくつかの委員会がどのような目的で設置されているのか知らないという事態も発生しています。新体制の初めに、関係団体やシニアと共に足並みを揃えるという意味で、理事長の所信を表明する式典を実施します。</p> <p>2. 檀原JC姉妹締結30周年・交流事業 本事業は姉妹JCである檀原JCとの姉妹締結30周年という節目を迎えるにあたり、会員間の交流を通してこれからの友好をさらに良くするために行う会員交流事業です。例年檀原と宮崎で行う事業には理事役員の参加が主となっており、理事以外の会員が交流できる場というのは多くはありません。姉妹JCとしての絆を深め次の周年も今以上に友好を深める起爆剤となる事業を展開します。具体的な手法についてはこれから檀原JCと協議を重ねて事業を構築して参ります。</p> <p>3. 75周年記念式典事業 本事業は宮崎JCが設立75周年目の節目ということで、対外の方をお招きして式典を実施します。その中でこれまでの歴史や、NEXT5、JCの山などの運動についての発信を行います。5年ごとにしか行われない周年式典は、宮崎JCの運動を広く地域に発信するには最適であると言えます。産官学が連携し運動のインパクトを最大化させるためにも、本事業を通して関係団体やシニアに対して、これからの宮崎JCの運動指針(NEXT5)やJCの山売却事業についても発信を行います。式典の内容については、75周年特別委員会と連携して構築して参ります。</p> |



75周年特別委員会
委員長 長岡 海人

| | |
|-------------|--|
| <p>基本方針</p> | <p>1 創始の精神の承継 1951年の設立趣意書に込められた「正しきを愛し、行動で地域を変える精神」を、時代の変化にかかわらず次世代へ継承する。 2 記念式典と記念事業の実施 75年の歩みを支えたシニア・メンバー・他LOMの皆様にご感謝を表し、その成果と意義を広く発信する。 3 次なるNEXT5の抽出 地域におけるロールモデルとなる事業を展開し、次の5年を見据えた方向性を示す。</p> |
| <p>設置背景</p> | <p>宮崎JCは2026年度に創設75周年を迎えます。創立75周年を迎えるにあたり、これまでの宮崎JCとしての運動を振り返り、これからの5年、10年先を検討する必要があります。また、1976年に植林されたJCの山が植林されてから50年の節目を迎えます。JCの山がなぜ植林されたのかを理解していないメンバーや存在そのものを知らないメンバーも増えている現状があります。本来の目的を理解してもらうことも必須事項ではありますが、なぜ植林をしたのか、本来の目的をしっかりと引き継ぐ必要があります。また、2021年度にNXET5(5か年の中長期計画)が制定されて5年が経過いたします。宮崎市もこの5年間で在留外国人の増加やインバウンドなど課題は常に変化しております。そのためにも、宮崎JCの方向性の指針となる5か年計画である評価方法を策定する必要があります。</p> |
| <p>設置目的</p> | <p>NEXT5や75周年特別事業を通して、過去の先輩諸兄方から引き継いできた伝統を新たな形で運動を展開し、これからの宮崎JCの活動が今まで以上に地域にインパクトを残せるようにメンバーの指標となる目標及び運動を展開し、運動の最大化を目的とします。</p> |
| <p>事業概要</p> | <p>1. NEXT5の策定 本事業は、創設70周年にこれまでの10か年計画から時代変化のスピードに合わせた5か年の中長期計画の継続事業となります。2021年度から5か年が経過いたしますが、NEXT5自体が形骸化しているという検証結果がありました。そこで宮崎JCが運動を展開するにあたり、NEXT5は目指すべき社会に向かって事業構築が出来ているのか、本当に必要な運動であるのか、確認するための非常に重要な指針及び要素であります。そのため、パートナーからの評価方法や自走出来る運動であったかを単年度でも検証が出来る方法を検討する必要があります。</p> <p>2. 周年記念事業 本事業は、JCの山が奨学金を目的とした記念事業であります。実際の売却益を考慮した際に奨学金としての金額に及ばないのが実情です。そのため、75周年記念事業はJCの山の売却益を基に未来ある子供たちの夢を叶えることを目的とします。奨学金制度は、対象者が特定の分野や全般的に秀でている子供を支援することが目的であり、本事業の対象者の選定においても、芸術、学問、スポーツなどいずれかの項目で秀でている子供の支援を推進していきます。また、売却益を使用するにあたり、事業価値を最大化するため、本年度は対象者を一人に絞る事業検証を行い、持続可能な支援ができる運動を展開していく初年度とします。</p> <p>3. JCの山売却事業 本事業は、1976年以前に子供たちの奨学金等の支援をメンバーの実費にて実施しておりました。しかしながら、1976年に25周年特別事業として、未来の子供たちの奨学金等の支援を目的として宮崎市が保有する土地である宮崎市大字加江田字蛇ノ河内6515-3の土地借用契約を結び植林を実施いたしました。2026年度に75周年を迎えるにあたり植林した立木を売却し未来の子供たちへの事業を展開することを目的としております。そして、現在植林されて50年が経過しようとしております。木材の価格下落により一度5年間伐採期間を延長しましたが、価格向上を待つことも可能ではありますがどのタイミングが最適か否かは、市場価格によるので決定するのが難しいことが想定されます。また、伐採期間を延長することにより、今後の植林やその他の未来の子供たちへの支援が後ろ倒しになります。そのため宮崎JC創設75周年及び植林開始から50周年である2026年度に伐採を実施することが実行性の高い運動となります。</p> |

ブランディング委員会
委員長 河野 友樹



| | |
|-------------|--|
| <p>基本方針</p> | <p>総務及び広報という組織を下支えする役割を着実に果たすことで、事業運動の効果の最大化に寄与することを基本方針とします。</p> |
| <p>設置背景</p> | <p>広報の役割は、宮崎青年会議所の価値を言語化し、届ける相手の視点から存在意義を再定義することである。感情的な動機を喚起することが、宮崎青年会議所のブランドイメージを向上させ、地域になくてはならない団体と認識してもらう必要があります。また、宮崎青年会議所メンバー間の温度差、理念浸透不足が出席率、事業参加率に表れており、自分たちは何のために宮崎青年会議所活動を行うのかを再認識する機会が必要です。さらに、まつりえれこっちゃんみやぎは、県内最大級の祭りであり、宮崎青年会議所にとっても地域社会への貢献を示す重要な事業です。毎年、多くのLOMメンバーがボランティアとして参加していますが、その関わりは受け身にとどまり、主体性を発揮する機会が少ないため、達成感を得にくいという課題があります。</p> |
| <p>設置目的</p> | <p>理念共感型の広報を行い、宮崎青年会議所のブランドイメージを向上させ、地域になくてはならない団体と認識してもらうことを目的とします。すべてのメンバーが宮崎青年会議所の「顔」であり「ブランド」であるという自覚を持ち、誇りをもって行動できるよう、会員間での情報共有や内部広報体制の充実を図ることを目的とします。まつりえれこっちゃんみやぎにおけるLOMメンバーの関わりを、主体的な参画に転換することで、事業を通じて達成感や学びを得られる機会を創出し、青年会議所活動の意義を実感するとともに、地域社会への貢献度を一層高めることを目的とします。</p> |
| <p>事業概要</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. SNS、ホームページの管理・発信 SNSや公式ホームページを活用し、私たちの理念や想いを発信し、共感を生み出す広報活動に取り組みます。各委員会の事業については、単なる活動報告にとどまらず、表には見えにくい準備段階や裏方での努力に光を当て、多くのメンバーが積み重ねてきた物語として伝えます。アカウント管理を行い、SNSの特性や利用者層に合わせた発信戦略を展開します。 2. 広報誌の発行 広報誌の発行は、主にシニア向けの事業報告にとどまっており、ホームページの連携も不十分なため、活用方法を見直す必要があります。行政や地元企業、大学関係者、将来の有力なスポンサー候補といった質の高い情報を求める層を新たなターゲットにし共感を得る事で宮崎青年会議所の価値や活動を幅広い世代への認知度の向上を実現します。 3. まつりえれこっちゃんみやぎ2026の構築・参加推進 23回目の開催を迎えるまつりえれこっちゃんみやぎにLOMメンバーが運営側として参画することで主体性と責任を持って活動できる環境を整えます。達成感や学びを得られる機会を創出し、地域社会の発展につなげます。段階的に責任ある役割を経験できる仕組みを整備することで、メンバーの成長を促し、持続的な参画意欲を高めます。 |

総務グループ



総務委員会
委員長 日高 優美

| | |
|----------------|---|
| <p>基 本 方 針</p> | <p>総務及び広報という組織を下支えする役割を着実に果たすことで、事業運動の効果の最大化に寄与することを基本方針とします。</p> |
| <p>設 置 背 景</p> | <p>各事業における出席状況に個人差があり、全員を巻き込んだ活動となっていない現状があります。また、事業に参加したメンバーにおいて、最初から参加した場合も遅参した場合も出席率の上では一緒となっている現状があります。宮崎JC内部の連携を強化し、組織としての魅力と伝統を共有し、活動に対して前向きなメンバーだけでなく、そうでないメンバーも含め、全員が出席したいと思える、また出席したことを納得できる組織とするための土台が必要です。</p> |
| <p>設 置 目 的</p> | <p>誰もが活躍でき参加しやすい組織としていくための土台となる諸会議や例会におけるスムーズかつ公正な運営を行い、各会議体、委員会の運動の支えとなることを目的とします。</p> |
| <p>事 業 概 要</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 例会の設営・運営 スムーズに進行できるように事前の準備を徹底し、準備物、設営、運営を滞りなく行えるようにします。参加者や運営側の負担の軽減や、効率化を目指し新しい取り組みに挑戦します。 2. 通常総会・臨時総会・常任理事会・理事会の設営・運営 事業の根幹をなす各種会議を正確かつスピーディに進めることで、事業の成果を最大限に引き出すことに貢献します。 3. 会員手帳、基本資料の発行 事業運動を行うための必須資料となる会員手帳、基本資料を適時適切なスケジュールに従い、誤りの無いように作成します。 4. 卒業式の構築・実施 多大な貢献をした卒業生に心からの感謝を込めた盛大な送別を行うことで、記憶に深く刻まれる最高の瞬間を創出し、これにより、現役メンバーは青年会議所で活動を全うすることへの強い動機付けを得られるようにします。 |



渉外交流委員会
委員長 長井 健太

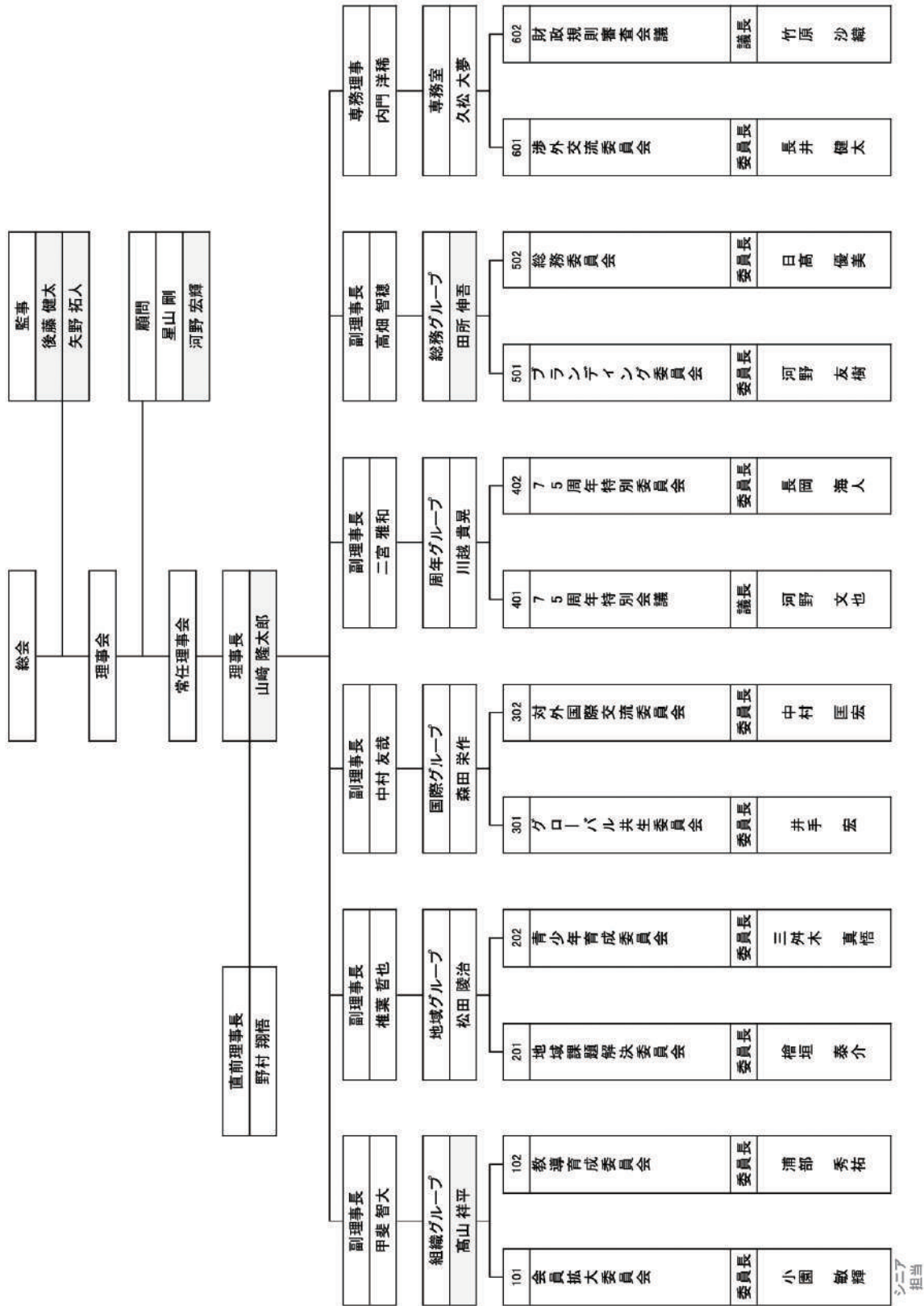
| | |
|-------------|---|
| <p>基本方針</p> | <p>宮崎青年会議所としての活動の本質を見直し、メンバー全体に落とし込むことで、宮崎青年会議所の運動の効果をさらに高めることを目指します。</p> |
| <p>設置背景</p> | <p>近年、宮崎青年会議所においても地域社会を取り巻く環境は大きく変化しており、まちづくりや人づくりを推進していくためには、地域内にとどまらず、県内外さらには全国の同志と交流を深め、広い視野を持って活動することが求められています。しかしながら、現状では対外的な活動や外部団体との連携に積極的に関わるメンバーに限られており、LOM全体として渉外活動への理解や参加意識が十分に高まっているとは言えません。このままでは、せっかくの学びや経験を共有できず、組織力の強化につながらないという課題があります。そこで、本年度は渉外交流委員会を設置し、対外事業を、各種大会・会議への積極的な参加を通じて、メンバー一人ひとりが外に出て多様な価値観に触れる機会を提供していきます。これにより、青年会議所運動の意義を再認識し、組織としての存在感を高めるとともに、地域社会に必要とされる人財の育成を実現していく必要があります。</p> |
| <p>設置目的</p> | <p>本委員会は、対外的な活動を通じて宮崎青年会議所の存在意義を広く発信するとともに、メンバーが多様な価値観に触れ自己成長を遂げる機会を創出することを目的とします。また、国内における対外事業を推進し、メンバー間の親睦を深めることで事業水準の向上を図り、組織としての力を高めるために設置します。</p> |
| <p>事業概要</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各対外事業の外部折衝 各会議体・委員会の事業における成果を高める為、渉外交流委員会が担当委員会と協力して国内対外事業参加推進を担当します。日本青年会議所が掲げる基本理念を学んだり運動発信の場となります。また、メンバー同士が交流する機会をつくり親睦を深めたうえで、参加するメンバーが学んだ知識や経験をLOMの活動に反映し、地域を牽引する組織を目指します。 2. 2月例会 宮崎ブロック会長公式訪問 本事業は、宮崎ブロック協議会との公式訪問を通じて、ブロックの運動方針を正しく理解し、LOMメンバーへ浸透させることを目的とします。公式訪問においては、宮崎ブロック協議会より事業説明をいただき、ブロックとLOM間の相互理解と連携を深めます。また、公式訪問の意義をメンバーに伝えることで参加意欲を高め、積極的な参画を促進します。さらに、公式訪問を契機にブロック役員との交流を図り、LOM単独では得られない知見やネットワークを獲得し、地域や運動の発展につながる関係性を構築します。加えて、ブロック協議会や地区協議会へ出向しているメンバーとの情報共有を行い、出向で得た経験や学びをLOMに還元する仕組みを整えます。公式訪問で得られた学びは委員会や理事会で共有し、LOMの運動計画や事業展開に反映させることで、より実効性のある運動を推進していきます。 3. わんぱく相撲 本事業は、次代を担う子どもたちに日本の伝統文化である相撲を体験してもらうことで、礼節を重んじる心や挑戦する姿勢、仲間との絆を育むことを目的とします。勝敗だけではなく、取り組みを通して努力する大切さや相手を尊重する心を学ぶ場を提供します。また、地域の子どもたち・保護者・関係団体との交流を深めることで、地域全体のつながりを強め、青少年健全育成と地域社会の発展に寄与します。 4. 日本本会議及び各協議会の役員会議・会員会議所会議へのオブザーブ 本事業では、日本本会の理事会や協議会、会員会議所の会議にオブザーブ参加できる体制を整え、多くのメンバーがLOMの枠を超えた活動に触れる機会を創出します。オブザーブで得た全国の方針や他LOMの取り組みを記録・整理し、委員会や例会で共有することで、宮崎JC全体の運動に活かし、組織としての政策立案力や事業構築力を高めます。さらに、会議参加を通じて他LOMや協議会関係者とのつながりを築き、将来的な渉外活動や共同事業につながる関係性を構築していきます。 |



財政規則審査会議
議長 竹原 沙織

| | |
|-------------|---|
| <p>基本方針</p> | <p>宮崎青年会議所は、LOMとして組織されており、宮崎ブロック協議会、九州地区協議会、日本青年会議所と組織が地域をまたいで大きな組織の中の一部に組み込まれています。その為、宮崎青年会議所の活動を進めていく上で宮崎ブロックの動き、九州地区協議会の動き、日本青年会議所の動きを知り、連携、協力を図っていくことは地域への影響力や活動のインパクトを大きくしていく上で非常に重要です。日本や各地区、ブロックにおいても、それぞれの理事会、協議会などの各種会議において話し合われ、運動が発信、実行されます。京都会議やサマーコンファレンス、全国大会、各地区大会、ブロック大会では、これらの運動等について発信されており、その運動に触れて学ぶ機会となります。ここにLOMを上げて参加することで、活動の方向性や意義、目的を学ぶ機会とし、LOMとしての機運を高め、活動の熱量を上げていく必要があります。また、各種運動は様々な規則やルールに則り行われています。これにより、青年会議所という団体の信頼性、正当性が確保されています。近年では、会員の在籍年数の短縮、アカデミー会員の増加などにより、青年会議所としての活動の意義や目的、様々な規則やルールが定着していないことが多く見られます。これらを再度落とし込み、LOM力の底上げが必要です。</p> |
| <p>設置背景</p> | <p>JCが永続的に発展するためには、一般社団法人としての成立根拠である法令に準拠した公正妥当な会計に従い、適正で透明性のある予算計画の立案・執行・決算の会計プロセスを確立し、財政を健全化することが不可欠です。さらに、JCの社会的価値を高めるためにはコンプライアンスを遵守し、災害など多様なリスクに備えた防災体制を構築することも求められています。こうした背景から、各事業における議案や予算が統一ルールに基づいて適正に作成・運営されるようマニュアルを整備し、各議長・委員長へ周知することが重要です。あわせて、事業終了後には監事会において決算報告を精査し、議案通りに事業が実施されたか、予算が適正に執行されたかを確認することにより、組織の信頼性と市民からの安心感を確保する必要があります。</p> |
| <p>設置目的</p> | <ol style="list-style-type: none"> ①コンプライアンスの徹底：規律ある組織運営と透明性の確保。 ②事業予算・決算の精査：各事業の議案や予算を厳正に審査し、不備や無駄を防止。 ③費用対効果の検証：支出が妥当で成果に見合っているかを確認。 ④健全な組織運営の実現：会員や市民から安心・信頼を得られる組織基盤を強化する。 ⑤ガバナンス強化：防災体制を含めたりスクマネジメントを整備し、組織の持続的発展を支える。 |
| <p>事業概要</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 財政規則審査会の実施 宮崎青年会議所の活動を健全かつ持続的に推進していくためには、透明性と公平性を備えた財政運営が不可欠です。しかし現状では、規則に対する理解不足や訂正の多さが課題となっており、ルールやコンプライアンスに対する意識が薄れている状況が見受けられます。時代とともに受け継がれてきた規則が緩み、一度の緩みがさらなる緩みを生んでいる現状は、組織運営の健全性を損なう要因となりかねません。 また、宮崎青年会議所で用いられている規則と、日本青年会議所等で用いられている規則には差異があり、その結果、出向時に内容ではなくルールの違いで混乱するケースも多く見られます。本会議では、既存の財政規則を精査し、必要に応じて厳格化するとともに、日本本会の規則と整合性を持たせたルール運用を目指します。特に今年度は、誰もが理解しやすく、活用しやすいマニュアルを作成し、ルールの標準化と浸透を図ります。これにより、会員が安心して活動できる基盤を整えるとともに、宮崎青年会議所での学びをそのまま出向等の場に活かせるようにし、組織としての信頼性向上と持続可能な発展を実現してまいります。 2. 災害対策会議への参加(災害協定対応) 宮崎青年会議所は単年度制の組織でありながらも、有事の際に迅速に対応できる初動体制の確立と、継続的に機能する持続可能な防災の仕組みを維持することを目的とします。災害発生時には必要なネットワークを通じて地区全体で連携し、地域の安全と安心のための支援活動に積極的に取り組みます。 3. AWARDS MIYAZAKI 2026の企画及び各種AWARDSエントリーの実施 褒賞事業を行うことにより、メンバーの活動を互いに讃え合い、JC活動への意欲を高めることを目的とします。例年、投票はGoogleフォームにて行われてきましたが、実際には各委員会の活動全体を理解した上で選ぶのではなく、個々を知る範囲の印象に基づいた投票となる傾向が見受けられました。そこで今年度は「メンバーの活動を可視化する」ことに重点を置き、各委員会ごとに活動内容をまとめたアピール用のチラシまたは映像を作成し、投票時にそれらを提示することで、公平性と納得感のある表彰につなげてまいります。さらに、この取り組みにより、各委員会の活動を全体で共有でき、互いの努力を知ることで組織としての一体感が高まります。また、活動内容が可視化されることで委員会間の理解や連携が促進され、今後の事業推進においても相乗効果が期待できます。 4. まつり宮崎への参画推進 県民に親しまれる「まつり宮崎」に参画することで、青年会議所の地域貢献姿勢を示し、会員の地域参画意識の向上を図ります。 5. 九州コンファレンスの参画推進 毎年開催地を変えて実施される九州コンファレンス。2026は大分県中津市にて開催されます。九州各地のJCメンバーが一堂に会し、その年の開催地ならではの特色を体感しながら、地域住民や他地域のメンバーとの交流を深めます。こうした交流を通じて、地域間の連携や相乗効果を生み出し、各地域の持続的な発展へとつなげていくことを目指します。 6. 家族感謝祭の企画・運営・実施 メンバーのご家族へ日ごろのJC活動への理解と支えに感謝をお伝えする場として、11月例会メインアワーに家族感謝祭を実施いたします。これまで食事中心のイメージが強かった本事業ですが、今年度は「楽しむ場」と「学びの場」を融合させ、ご家族にとってより有意義な時間となるよう工夫を凝らします。家庭の円満は組織活動への理解や協力にもつながると考えます。家族晚餐会として夜に開催された年もありましたが、今年は家族感謝祭とし、昼間の開催を予定しています。 |

一般社団法人宮崎青年会議所 2026年度組織図



シニア
担当

2026年度年間事業スケジュール表

| 年間スケジュール | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-----------------------------|-----------------|---------------------------|----------------------------|------------------|-----------------|----------------------|-----------------------|--|----------------------------------|-----------------------|----------------------------------|----------------------------|-------------------|
| 諸会議・例会等 | 総 会 | 8日(木) | | | | | | | 未定 | | | | |
| | 常 任 理 事 会 | 20日(火) | 17日(火) | 19日(木) | 21日(火) | 19日(火) | 23日(火) | 23日(火) | 20日(木) | 24日(木) | 20日(火) | 19日(木) | 22日(火) |
| | 監 事 会 | 30日(金) | 27日(金) | 30日(金) | | 1日(木) 29日(金) | | 3日(金) | 3日(月) 31日(月) | | 5日(月) 30日(金) | 30日(月) | |
| | 理 事 会 | 6日(火) | 5日(木) | 3日(火) | 2日(木) | 7日(木) | 4日(木) | 7日(火) | 4日(火) | 1日(火) | 6日(火) | 5日(木) | 3日(木) |
| | 委 員 会 | 7日(水)~19日(月) | 6日(金)~16日(月) | 4日(水)~18日(水) | 3日(金)~20日(月) | 8日(金)~18日(月) | 5日(金)~22日(月) | 10日(水)~22日(月) | 5日(水)~20日(水) | 2日(水)~23日(水) | 7日(水)~19日(月) | 6日(金)~18日(水) | 4日(金)~21日(月) |
| | 例 会 | 8日(木) | 9日(月) | 12日(木) | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 |
| 主 要 事 業 | | ●事務局開き ●新年挨拶会 ●京都会議 | ●ブロック会長 公式訪問 ●会報公式訪問 | | | ●JCフェスタ | ●ASPAC(新潟) | ●まつりえれこっ ちみやさき2026 ●サマーコンファ レンス | ●中間懇親会 ●九州コンファ レンス2026in中津 | ●九州地区 野球大会 | ●全国大会 神戸大会 ●宮崎神宮大会 | ●家族感謝祭 ●世界会議 (フィリピン) | ●LOM卒業式 ●事務局納め |
| 組 織 グ ル ー プ | 101 会員拡大委員会 | 会員拡大 | 会員拡大 | 会員拡大 | 新入会員育成 | 新入会員育成 JCフェスタin福岡 | 新入会員育成 | 新入会員育成 | 新入会員育成 | 新入会員育成 | 正会員認証 | | |
| | 102 指導育成委員会 | 会員拡大 | 会員拡大 | 会員拡大 | 例会メインアワー | 例会メインアワー | 例会メインアワー | | | | 宮崎神宮大会 | | |
| 地 域 グ ル ー プ | 201 地域課題解決委員会 | 会員拡大 | 会員拡大 | 会員拡大 | | | | | | | | | |
| | 202 青少年育成委員会 | 会員拡大 | 会員拡大 ソフトバンク交流事業 | 会員拡大 | | | | | 青少年育成事業 | | 全国大会 (神戸) | | |
| 国 際 グ ル ー プ | 301 グローバル共生委員会 | 会員拡大 | 会員拡大 | 会員拡大 | | | | 在留外国人財 産体験事業 | | 国際交流推進事業 国際フェスティバル | | 世界会議 (フィリピン) | |
| | 302 対外国際交流委員会 | 会員拡大 | 会員拡大 | 会員拡大 | | | インバウンド事業 ASPAC(新潟) | インバウンド事業 | インバウンド事業 | インバウンド事業 国際交流事業 | インバウンド事業 | | |
| 周 年 グ ル ー プ | 401 75周年特別会議 | 会員拡大 新年挨拶会 | 会員拡大 | 会員拡大 | | | | | 例会メインアワー | | 75周年記念式典 権原JCとの交流 姉妹締結30周年 | | |
| | 402 75周年特別委員会 | 会員拡大 | 会員拡大 JCの山伏探事業 | 会員拡大 | | | | サマー コンファレンス | 75周年記念事業 | | | | |
| 総 務 グ ル ー プ | 501 ブランディング委員会 | 会員拡大 | 会員拡大 | 会員拡大 広報誌発行 | | | 広報誌発行 | まつり えれこっちや みやさき2026 | | 広報誌発行 | | | 広報誌発行 |
| | 502 総務委員会 | 会員拡大 例会メインアワー | 会員拡大 | 会員拡大 例会メインアワー | | | | | | | | | 卒業式 例会メインアワー |
| 専 務 室 | 601 渉外交流委員会 | 会員拡大 京都会議 | 会員拡大 例会メインアワー | 会員拡大 | | わんぱく相撲 (宮崎地区・県大会) | | | わんぱく相撲 全国大会 | | | | |
| | 602 財政規則審査会議 | 会員拡大 | 会員拡大 | 会員拡大 まつり宮崎 | JCI権原との 交流事業 | | | | 九州コンファ レンス(中津) | | | 家族感謝祭 AWARD | |
| 宮 崎 ブ ロ ッ ク 協 議 会 | 会 員 会 議 所 会 議 | 31日(土)(日南) | 28日(土)(延岡) | 20日(金)(日向) | 29日(水)(都城) | 29日(金)(延岡) | 27日(土)(小林) | 23日(木)(西都) | | 26日(土)(串間) | 24日(土)(えびの) | 28日(土)(宮崎) | 19日(土)(宮崎) |
| | そ の 他 事 業 | | | | | JCフェスタ (延岡) | | | | | | | 解任式 |
| 九 州 地 区 協 議 会 | 役 員 会 議 | 21日(水)(中津) | 19日(木)(糸島) | 24日(火)(佐伯) | 24日(金)(唐津) | 25日(月)(鳥居) | 29日(月)(玉名) | 30日(木)(中津) | | 18日(金)(宮崎) | 23日(金) (鹿児島) | 26日(木)(熊本) | 22日(火)(小林) |
| | そ の 他 事 業 | 会員会議所会議 | | | | | | 会員会議所会議 | | | | 会員会議所会議 | |
| J C I 日 本 及 J C I 関 係 | J C I 日 本 理 事 会 | 23日(金)(京都) | 14日(土)(東京) | 6日(金)(東京) | 18日(土)(東京) | 16日(土)(東京) | 20日(土)(東京) | 17日(金)(横浜) | | 12日(土)(東京) | 2日(金)(神戸) | 21日(土)(東京) | 12日(土)(東京) |
| | そ の 他 事 業 | 京都会議 | | | | | | サマー コンファレンス | | | 全国大会 (神戸) | | |
| 各地周年事業 | | | | | | | | | | | | | |
| そ の 他 | | | | | | | | | | | | | |

| (1)収入の部 | | 2026年度 | 2025年度 | 差異 | 摘要 |
|--------------|-------------------|------------|------------|-------------|--|
| 大科目 | 中科目 | 予算 | 予算 | | |
| 会費収入 | 年会費収入 | 18,200,000 | 16,080,000 | 120,000 | 年会費 120,000 × 135 名 役員 |
| | 年会費収入 | 4,500,000 | 2,700,000 | 1,800,000 | 年会費 90,000 × 50 名 新入会員50名 |
| | 入会金収入 | 5,000,000 | 1,450,000 | 3,550,000 | 入会金 100,000 × 50 名 新入会員(入会金)50名 |
| | 特別会費収入 | 920,000 | 560,000 | 360,000 | 特別会費 40,000 × 23 名 卒業生 |
| | 計 | 28,620,000 | 20,790,000 | 5,830,000 | |
| 事務委託費収入 | 宮崎Jシニアクラブ | 150,000 | 150,000 | 0 | 事務局委託費 |
| | 宮崎ブロック協議会 | 150,000 | 150,000 | 0 | 事務局委託費・会議費 等 |
| | 計 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 補助金収入 | 地方公共団体補助金収入 | 620,000 | 700,000 | ▲ 80,000 | ワールドテラス宮崎県補助金(予定) |
| | 宮崎県国際交流協会 | 0 | 0 | 0 | |
| | 地方公共団体全国大会関係補助金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | 620,000 | 700,000 | ▲ 80,000 | | |
| 寄付金収入 | 寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| | 協賛金収入 | 0 | 1,400,000 | ▲ 1,400,000 | |
| | その他寄付金収入 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 75周年特別記念金 |
| 計 | 1,000,000 | 1,400,000 | ▲ 400,000 | | |
| 雑収入 | 受取利息収入 | 50,000 | 35,000 | 15,000 | 宮崎銀行・宮崎大銀行受取利息(++)、自動販売機リベート(+++) |
| | その他雑収入 | 750,000 | 745,500 | 4,500 | シニア名簿(500×1,500=750,000円) |
| | 雑収入 | 0 | 0 | 0 | 登録会計より |
| 計 | 800,000 | 780,500 | 19,500 | | |
| 繰入金収入 | 基金会計繰入金収入 | 2,234,588 | 0 | 2,234,588 | 2025ワールドテラス資金 |
| | 特別会計繰入金収入 | 3,000 | 3,000 | 0 | 別添積立(+), 遊樂積立(+), 公益目的(+), 登録会計(+), 通帳より |
| | 計 | 2,237,588 | 3,000 | 2,234,588 | |
| 特定会費収入事業会計収入 | 特定会費収入事業会計収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | | |
| 預り金収入 | 預り金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | | |
| 当期収入合計 | | 31,577,588 | 23,973,500 | 7,604,088 | |
| 前年度繰戻支差額 | | 41,135,463 | 43,257,662 | ▲ 2,122,199 | |
| 収入合計 | | 72,713,051 | 67,231,162 | 5,481,889 | |

| (2)支出の部 | | 2026年度 | 2025年度 | 差異 | 摘要 |
|------------------|----------------------|------------|------------|--------------------------------------|--|
| 大科目 | 中科目 | 予算 | 予算 | | |
| 負担金支出 | 【現在】 | | | | |
| | JCI負担金 | 298,350 | 287,430 | 10,920 | 負担金 2,210 × 135 名 1人あたり13ドル、1米ドル=170円で計算 |
| | 日本JCI基本額 | 90,000 | 90,000 | 0 | 基本額 30,000 × 135 名 51名から25名増すごとに15,000円 |
| | 日本JCI付加金 | 675,000 | 670,000 | 5,000 | 付加金 5,000 × 135 名 |
| | 日本JCI国際協力資金 | 246,375 | 244,550 | 1,825 | 協力金 1,825 × 135 名 |
| | 日本JCI出向者負担金 | 600,000 | 600,000 | 0 | 負担金 20,000 × 30 名 |
| | WeBelieve購読料 | 202,500 | 201,000 | 1,500 | 購読料 1,500 × 135 名 |
| | 地区協議会負担金 | 540,000 | 536,000 | 4,000 | 地区 4,000 × 135 名 |
| | ブロック協議会基本金 | 20,000 | 20,000 | 0 | 基本金 20,000 × 1 名 |
| | ブロック協議会負担金 | 405,000 | 402,000 | 3,000 | 付加金 3,000 × 135 名 |
| | 未来の青年会議所を創る協力金 | 202,500 | 201,000 | 1,500 | 協力金 1,500 × 135 名 2025年から徴収 |
| | じやがも(須藤節)年会費 | 20,000 | 20,000 | 0 | |
| | 【新入会員】 | | | | |
| | JCI負担金 | 110,500 | 70,785 | 39,715 | 負担金 2,210 × 50 名 1人あたり13ドル、1米ドル=170円で計算 |
| | 日本JCI基本額 | 15,000 | 15,000 | 0 | 基本金 |
| 日本JCI付加金 | 125,000 | 82,500 | 42,500 | 付加金 2,500 × 50 名 | |
| 日本JCI国際協力資金 | 91,250 | 60,225 | 31,025 | 協力金 1,825 × 50 名 | |
| 未来の青年会議所を創る協力金 | 37,500 | 23,250 | 14,250 | 協力金 750 × 50 名 2025年から徴収 | |
| WeBelieve購読料 | 12,500 | 16,500 | ▲ 4,000 | 購読料 250 × 50 名 | |
| 計 | 3,691,475 | 3,540,240 | 151,235 | | |
| 管理費支出 | 【2025】 | | | | |
| | 101 入財成長協大委員会 | | 1,070,000 | ▲ 1,070,000 | 会員拡大事業①②③/1月例会メインアワー①151万/新入会費育成事業①10万/振込感謝状①10万 |
| | 102 共存共栄委員会 | | 1,540,000 | ▲ 1,540,000 | 共存共栄推進①②③/宮崎神宮大会④43万/13月例会メインアワー(卒業式)⑤95万 |
| | 201 グローバル創造会議 | | 2,740,000 | ▲ 2,740,000 | 国際交流推進事業①15万/ワールドテラス②300万/ウェルカム宣言③7万 |
| | 202 グローバルネットワーク共創委員会 | | 1,300,000 | ▲ 1,300,000 | 国際交流推進事業④107万/マリーナ交流事業⑤4万/県-JCI交流事業⑥60万/ASPAC(モジロ)⑦47万 |
| | 301 地域課題解決委員会 | | 320,000 | ▲ 320,000 | 1月寄附徴収推進事業⑧10万/11月青少年育成事業の推進事業⑨25万 |
| | 302 スポーツネットワーク委員会 | | 970,000 | ▲ 970,000 | ソフトバンク事業100万円/ふんば(特選)⑩17万/地域課題解決事業⑪15万 |
| | 401 総務委員会 | | 1,010,000 | ▲ 1,010,000 | 青年会議所⑫43万/広報誌編集⑬34万/臨時報告⑭12万/報告書⑮21万 |
| | 402 パブリシティ委員会 | | 2,980,000 | ▲ 2,980,000 | 広報事業計画⑯17万/ARAFD M73AZA02205⑰11万 |
| | 501 施設規程審査会議 | | 200,000 | ▲ 200,000 | 公益実業⑱17万/54和製士⑲10万 |
| | 502 事務局 | | 200,000 | ▲ 200,000 | 2月ブロック委員会訪問⑳4万/宮崎神宮大祭観摩JCI交流事業㉑18万 |
| | 【2026】 | | | | |
| | 101 会員拡大委員会 | 238,000 | | 238,000 | 会員拡大事業①10万/新入会費育成事業②12,5万 |
| | 102 教育育成委員会 | 1,130,000 | | 1,130,000 | 教育育成推進③23万/宮崎神宮大会④43万 |
| | 201 地域課題解決委員会 | 650,000 | | 650,000 | 国際交流推進事業⑤15万/10月臨時報告⑥15万 |
| | 202 青少年育成委員会 | 162,500 | | 162,500 | ソフトバンク事業⑦4万/推進事業⑧10万 |
| | 301 グローバル共生委員会 | 3,400,000 | | 3,400,000 | ワールドテラス⑨100万/外国人観光客体験事業⑩10万/世界会議ブース出張⑪30万 |
| | 302 対外国際交流委員会 | 1,000,000 | | 1,000,000 | インバウンド事業⑫15万/グローバル育成⑬15万/ASPACブース出張⑭30万 |
| | 401 75周年特別会議 | 2,700,000 | | 2,700,000 | 新年挨拶会⑮43万/広報誌編集⑯34万/臨時報告⑰12万/報告書⑱21万 |
| | 402 75周年特別委員会 | 200,000 | | 200,000 | 公益実業⑲17万/75周年記念事業 |
| | 501 プランニング委員会 | 10,000 | | 10,000 | 市内広報⑳1万 |
| | 502 総務委員会 | 4,710,000 | | 4,710,000 | 報告書⑳1万/卒業式⑳25万/役員所轄通⑲25万/その他総務費 |
| | 601 渉外交流委員会 | 505,000 | | 505,000 | ブロック公式訪問会⑳1万/かんぱく推進⑳90万 |
| | 602 施設規程審査会議 | 300,000 | | 300,000 | 事業感謝状㉑10万/ARAFD M73AZA02205㉒10万 |
| | 計 | 15,005,500 | 12,330,000 | 2,675,500 | |
| インフォメーション関係費 | 400,000 | 100,000 | 300,000 | HPの作成・更新(12ヶ月分・随時更新) HP構成変更 | |
| *(広報誌「みやざき」制作費) | 800,000 | 600,000 | 200,000 | シニア500部 3ヶ月に1回の年4回発行 | |
| 会議費支出 | 1,300,000 | 850,000 | 450,000 | 例会会場費(2025年実績1,163,904円) | |
| 給与手当支出 | 1,700,000 | 1,500,000 | 200,000 | 事務局員給与、社会保険料・雇用保険 | |
| 印刷製本費支出 | 200,000 | 220,000 | ▲ 20,000 | 複写機メンテナンス(15万)インク代(20万)機器保守料金(10万)他 | |
| 消耗品費支出 | 150,000 | 60,000 | 90,000 | 事務局封筒、コピー用紙、慶弔品、タックシール、印鑑他 | |
| 通信・発送費支出 | 700,000 | 650,000 | 50,000 | シニア広報誌発送料・電話代・切手代・印紙受領料他 | |
| 借入金支出 | 2,800,000 | 2,800,000 | 0 | 家賃・駐車場(215,000×12ヶ月)平和臨海倉庫代(220,000) | |
| 光熱水費支出 | 450,000 | 420,000 | 30,000 | 電気・ガス・水道代 | |
| 保険料支出 | 100,000 | 100,000 | 0 | 火災、山車、事務局用LOM備品全般にかかる保険一式 | |
| 雑支出 | 350,000 | 300,000 | 50,000 | 振込手数料・LOM会計マニュアル・法人税他 | |
| 姉妹JCI関係・各地周年・その他 | 100,000 | 100,000 | 0 | | |
| 渉外費支出(課税対象) | 200,000 | 60,000 | 140,000 | (課税対象)贈答品、御禮他 | |
| 渉外費支出(非課税対象) | 200,000 | 250,000 | ▲ 50,000 | (非課税対象)慶弔費他 | |
| 計 | 9,250,000 | 8,020,000 | 1,230,000 | | |
| 特定会費収入事業会計支出 | 特定会費収入事業会計支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | | |
| 繰入金支出 | 繰入金支出 | 2,500,000 | 0 | 2,500,000 | 登録会計への繰入金 |
| 計 | 2,500,000 | 0 | 2,500,000 | | |
| 預り金支出 | 預り金支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | | |
| 積立金支出 | 退職金積立金支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 別添積立金支出 | 0 | 0 | 0 | | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | | |
| 固定資産取得支出 | 什器備品購入支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | | |
| 予備費 | 予備費 | 1,130,613 | 832,600 | 1,047,353 | |
| 当期支出合計 | | 31,577,588 | 23,973,500 | 7,604,088 | |
| 当期収支差額 | | 0 | 0 | 0 | |
| 前年度繰戻支差額 | | 41,135,463 | 43,257,662 | ▲ 2,122,199 | |

2026年度 登録会費収支予算書(案)

(自2026年1月1日 至2026年12月31日 単位:円)

| (1)収入の部 | | 2026年度 | 2025年度 | 対比 | 摘要 | | |
|----------|-----------------|------------|------------|------------|----------|---|------|
| 大科目 | 中科目 | 予算 | 予算 | | | | |
| 会計収入 | 登録会費 | 9,450,000 | 8,040,000 | 1,410,000 | 70,000 | × | 135名 |
| | 登録会費(新入会員) | | 1,500,000 | ▲1,500,000 | 50,000 | × | 50名 |
| | 新年挨拶会(シニア登録費) | 700,000 | 840,000 | ▲140,000 | 10,000 | × | 70名 |
| | 新年挨拶会(来賓登録費) | 300,000 | 410,000 | ▲110,000 | 10,000 | × | 30名 |
| | 新年挨拶会(新入会員登録) | 0 | 20,000 | ▲20,000 | 10,000 | × | 0名 |
| | 中間懇親会(シニア登録費) | 600,000 | 700,000 | ▲100,000 | 10,000 | × | 60名 |
| | 75周年式典(シニア登録費) | 1,200,000 | | 1,200,000 | 15,000 | × | 80名 |
| | 75周年式典(来賓登録費) | 600,000 | | 600,000 | 15,000 | × | 40名 |
| | 75周年式典(メンバー登録費) | 1,850,000 | | 1,850,000 | 10,000 | × | 185名 |
| | 家族感謝祭 | 120,000 | 475,000 | ▲355,000 | 3,000 | × | 40名 |
| | 家族感謝祭(アルコール代) | 0 | 19,800 | ▲19,800 | 1,100 | × | 0名 |
| | 計 | 14,820,000 | 12,004,800 | 2,815,200 | | | |
| 雑収入 | 受取利息収入 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 繰入金収入 | 一般会計繰入金収入 | 2,500,000 | 0 | 2,500,000 | 一般会計より繰入 | | |
| | 計 | 2,500,000 | 0 | 2,500,000 | | | |
| 当期収入合計 | | 17,320,000 | 12,004,800 | 5,315,200 | | | |
| 前期繰越収支差額 | | | | 0 | | | |
| 収入合計 | | 17,320,000 | 12,004,800 | 5,315,200 | | | |

| (2)支出の部 | | 2026年度 | 2025年度 | 対比 | 摘要 | | |
|----------|-------------------|------------|------------|------------|-----------|---|------|
| 大科目 | 中科目 | 予算 | 予算 | | | | |
| 登録会費 | 宮崎ブロック大会登録費(延岡) | 1,350,000 | 1,340,000 | 10,000 | 10,000 | × | 135名 |
| | 九州コンファレンス登録費(中津) | 1,350,000 | 1,072,000 | 278,000 | 10,000 | × | 135名 |
| | 全国大会登録費(神戸) | 1,755,000 | 1,662,500 | 92,500 | 13,000 | × | 135名 |
| | 全国大会大懇親会費 | 0 | 0 | 0 | 5,000 | × | 0名 |
| | ASPAC登録費(新潟) | 594,000 | 864,000 | ▲270,000 | 54,000 | × | 11名 |
| | ASPACブース出展料 | 150,000 | 150,000 | 0 | 150,000 | | |
| | サマーコンファレンス登録費(横浜) | 884,000 | 600,000 | 284,000 | 13,000 | × | 68名 |
| | 世界会議登録費(フィリピン) | 841,500 | 841,500 | 0 | 76,500 | × | 11名 |
| | 世界会議ブース出展料 | 150,000 | 150,000 | 0 | 150,000 | | 1 |
| | 新年挨拶会(食事代) | 1,560,400 | 1,452,000 | 108,400 | 6,640 | × | 235名 |
| | 新年挨拶会(フリードリンク代) | 620,400 | 633,600 | ▲13,200 | 2,640 | × | 235名 |
| | 中間懇親会(食事代) | 1,626,800 | 1,197,000 | 429,800 | 6,640 | × | 245名 |
| | 中間懇親会(フリードリンク代) | 646,800 | | 646,800 | 2,640 | × | 245名 |
| | 75周年式典(食事代) | 2,684,000 | | 2,684,000 | 8,800 | × | 305名 |
| | 75周年式典(フリードリンク代) | 805,200 | | 805,200 | 2,640 | × | 305名 |
| | 家族感謝祭 | 1,822,500 | 1,392,000 | 430,500 | 8,100 | × | 225名 |
| | 姉妹JC・各地周年・その他 | 479,400 | 650,200 | ▲170,800 | | | |
| | | 計 | 17,320,000 | 12,004,800 | 5,315,200 | | |
| 繰入金支出 | 一般会計繰入支出 | 0 | 0 | 0 | 一般会計へ移動 | | |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 当期支出合計 | 計 | 17,320,000 | 12,004,800 | 5,315,200 | | | |
| 当期収支差額 | | 0 | 0 | 0 | | | |
| 次期繰越収支差額 | | 0 | 0 | 0 | | | |

2026 年度 出向者

| | 氏名 | | 委員会名 / 役職 |
|---------|---------|-------------------------|------------------------------|
| | 1 | 柿塚 健太郎 | 国際青年会議所 アジア太平洋開発協議会 / 開発担当役員 |
| 2 | 星 山 剛 | スポーツ人財育成委員会 / 委員長 | |
| 3 | 藤元 丈生 | スポーツ人財育成委員会 / 総括幹事 | |
| 4 | 後藤 健太 | スポーツ人財育成委員会 | |
| 5 | 久松 大夢 | スポーツ人財育成委員会 | |
| 6 | 上村 光太郎 | スポーツ人財育成委員会 / 小幹事 | |
| 7 | 神田 崇志 | スポーツ人財育成委員会 / 小幹事 | |
| 8 | 長井 健太 | スポーツ人財育成委員会 | |
| 9 | 松山 倫章 | スポーツ人財育成委員会 | |
| 10 | 内山 悠太郎 | スポーツ人財育成委員会 | |
| 11 | 岩本 菜月 | スポーツ人材育成委員会 / 総括幹事補佐 | |
| 12 | 谷 優 輝 | スポーツ人財育成委員会 | |
| 13 | 中島 祥太 | スポーツ人財育成委員会 | |
| 14 | 二宮 雅和 | 地域開発会議 / V C | |
| 15 | 大始 良 貴義 | 地域開発会議 / 小幹事 | |
| 16 | 門口 将宏 | 地域開発会議 | |
| 17 | 田口 裕也 | 地域開発会議 | |
| 18 | 中村 友哉 | 会員拡大会議 / 会計幹事 | |
| 19 | 松田 陵治 | 会員拡大委員会 | |
| 20 | 河野 文也 | 会員拡大委員会 | |
| 21 | 小園 敏輝 | 会員拡大委員会 | |
| 22 | 朽木 大貴 | J C I アカデミー委員会 / 運営幹事 | |
| 23 | 松田 秀義 | J C I アカデミー委員会 | |
| 24 | 井上 貴博 | J C I アカデミー委員会 | |
| 25 | 長友 慶一郎 | J C I アカデミー委員会 | |
| 26 | 八田 京子 | J C I 関係委員会 / 会計幹事 | |
| 27 | 木原 瑛 聡 | J C I 関係委員会 | |
| 28 | 山本 次郎 | J C I 関係委員会 | |
| 29 | 河野 紗 霧 | 渉外委員会 / 副会長セクレタリー | |
| 日本青年会議所 | | 氏名 | 委員会名 / 役職 |
| | 1 | 椎 葉 哲也 | 防災グループ担当副会長 |
| | 2 | 柿塚 健太郎 | 国際外交政策会議 |
| | 3 | 祝 出 侑果 | 国際外交政策会議 |
| 九州地区協議会 | | 氏名 | 委員会名 / 役職 |
| | 1 | 河野 宏輝 | 会 長 |
| | 2 | 後藤 健太 | 監 査 担 当 役 員 |
| | 3 | 浅野 龍昇 | 運 営 専 務 |
| | 4 | 濱口 大樹 | 副 会 長 |
| | 5 | 馬 場 功 | 事 務 局 局 長 |
| | 6 | 前原 佑紀 | 事 務 局 次 長 |
| | 7 | 河野 紗霧 | 事 務 局 次 長 |
| | 8 | 大久津 拓哉 | 財 政 局 局 長 |
| | 9 | 内山 悠太郎 | 財 政 局 次 長 |
| 10 | 佐 伯 康成 | L O M 支 援 委 員 会 副 委 員 長 | |

一般社団法人 宮崎青年会議所 参加・協力団体一覧
(順不同)

- 公益財団法人 宮崎県観光協会
- 宮崎県道路愛護運動推進協議会
- 宮崎県共同募金会
- 公益社団法人 宮崎県青少年育成県民会議
- 社会福祉法人 宮崎市社会福祉協議会
- 宮崎市国際交流協会
- 地域のにぎわい創出支援事業選考委員会
- 読売巨人軍宮崎協力会
- 福岡ソフトバンクホークス宮崎協力会
- オリックスバファローズ協力会
- 宮崎神宮御神幸祭奉賛会
- まつり宮崎 実行委員会

2025年度 報告書



明るい未来への道を
全員で創ろう

2025年度事業報告書



明るい未来への道を
全員で創ろう



第74代理事長
野村 翔悟

2025年度は、『全員力』をスローガンに掲げ1年間運動を展開させていただきました。関係者の皆様、そして先輩諸兄姉の方々には多くのお力添えをいただき心より感謝申し上げます。

本年度は、組織に所属する全メンバーがそれぞれの力を発揮し、チームとしての総合力を高めながら、一人ひとりが成長を実感できる1年を目指し、各事業を推進してまいりました。私たちが住み暮らす宮崎の持続的な発展のため、青年経済人としての責任と使命を胸に、地域課題の解決に向けて取り組んでまいりました。

組織グループにおいては、3ヶ月間の短期拡大活動により33名の新入会員を迎えることができました。目標の40名には届かなかったものの、未来の宮崎青年会議所を担う優秀な人材が多数加わりました。育成面では、JCの理念を単にインプットするだけでなく、実践的なアウトプットの機会を設けることで事業構築能力の向上を図りました。アカデミーメンバーが主体的に考え、行動する機会を創出し、組織の将来を支える強固な基盤形成に寄与したと確信しております。

国際グループでは、宮崎市内の小学生を対象とした国際感覚育成事業を展開しました。定員20名に対し約80名もの応募があり、本事業への高い関心が示されました。シンガポールでの多彩なプログラムや宮崎でのホームステイを通じ、参加者は異文化理解を深める貴重な経験を得ることができました。将来における国際的な活躍を大いに期待しております。さらに、モンゴルでのASPACとチュニジアでの世界会議へそれぞれ20名近くが参加し、ジャパンナイトにおけるブース展開を通じて宮崎の魅力を世界に発信しました。過去最多規模での参加により、「国際に強い宮崎JC」の存在感をより一層高めることに成功しました。加えて、ワールドテラスでは学生及び9カ国の在留外国人との協働により、従来にない深い国際交流を実現し、多文化共生社会の実現に向けた本事業の影響力を再認識する機会となりました。

地域グループの青少年育成事業では、不登校児童を対象とした職業体験プログラムを継続実施しました。宮崎YEGをはじめとする4団体との連携により、参加児童の選択肢を大幅に拡充することができました。多様な業種の職業体験を通じて、児童たちが自身の可能性を発見し、将来への希望を抱ききっかけを提供しました。特筆すべきは、2026年度より宮崎市教育委員会が本事業の主導を担うこととなり、民間発の取り組みを行政へ引き継ぐという理想的な展開を実現できたことです。青年会議所が先導的役割を果たし、社会的に必要な事業を確立し、行政による継続的な実施へと繋げることができました。これまでご尽力いただいた先輩諸兄姉に深く敬意を表します。

総務グループ・専務室では、年間を通じて例会時の託児所設置を継続しました。月平均1.5人の利用にとどまりましたが、子育て世代のメンバーが安心して例会に参加できる環境整備の重要性を認識する機会となりました。本年度の検証が次年度以降の改善に繋がるものと考えております。広報活動では365日SNS投稿を完遂し、フォロワー数を約700名増加させました。継続的な情報発信により、宮崎青年会議所の活動を広く市民の皆様を知っていただくことができました。メディアにも15回取り上げていただき、地域における認知度向上と信頼獲得に大きく貢献しました。渉外事業においては、京都会議61名、全国大会78名という過去最多規模での参加を実現し、全員力のスローガンを体現することができました。全国の青年会議所メンバーとの交流を通じ、多くの学びと刺激を得て、メンバーの成長に繋がりました。

結びに、この1年間ご支援いただいた全ての皆様へ深く感謝申し上げます。シニアの先輩方との交流も深化し、コロナ禍を経て組織は確実に強靭さを増しております。今後も組織の更なる発展を卒業後も見守り続けたいと思います。

1年間、誠にありがとうございました。

議 案 名 1月例会メインアワー「拡大講演会」

実 施 日 2025年1月9日(日)

実 施 場 所 宮日会館 IIF 宮日ホール

対 象 者 【対内】 宮崎青年会議所全メンバー
【対外】 なし

目 的 2025年度の会員拡大活動について全メンバーに共通の認識及び理解を有してもらい、高い士気で拡大活動に取り組むメンバーを増やすことを目的としました。

事 業 内 容 ■事業目的に達した点
拡大活動のスペシャリストである木村先輩にご講演いただくことで、参加いただいたメンバーに拡大活動についての認識と理解を有してもらい、士気を高めていただくことができました。

■目的に達しなかった点
モチベーションは高まったものの、拡大活動への具体的な取り組み方についてはまだ分からないというメンバーが複数いました。

事業目的の検証 1) 出席者において、2025年度の拡大活動に対する士気が高まった会員が90%以上
アンケートの結果、「2025年度の拡大活動に対する士気が高まりましたか。」という設問に対し、「高まった」という回答が95.5%となり、KPIを達成しました。

2) 出席者において、受講の結果具体的な拡大活動を新たに行った会員が90%以上
アンケートの結果、「本講演を受け、具体的な拡大活動を行おうと思いましたか。」という設問に対し、「思った」という回答が88.6%にとどまり、KPIを達成することはできませんでした。
理由として、「わからないから」「自分の職業上難しいため」等といった回答があり、拡大活動に取り組もうとする意欲はあるものの取り組み方が分からないメンバーがいることが分かりました。拡大委員会が主体となり、取り組み方についてメンバーに伝える必要があります。

事業風景



議 案 名 2025年度福岡ソフトバンクホークス交流事業報告

実 施 日 2025年2月1日(土)

実 施 場 所 生目の杜運動公園内体育館

対 象 者 【对内】 宮崎青年会議所全メンバー
【対外】 福岡ソフトバンクホークス選手団、一般社団法人宮崎市観光協会、
宮崎の子ども

目 的 福岡ソフトバンクホークス選手団と子どもたちの交流事業を通して、宮崎に住み暮らす子どもたちに夢と希望を与えること、また、スポーツへの関心度を高めることを目的としました。

事 業 内 容 福岡ソフトバンクホークスの選手団と子どもたちが交流をする機会を提供しました。
子どもたちをキャンプ地に招待し、体育館にて選手によるキャッチボールの見学や選手と子どもたちとレクリエーション形式で交流事業を実施しました。61名もの子どもたちに参加いただき、たくさんの笑顔を見ることができました。

事業目的の検証 ■事業におけるよかった点：
・グループ分けをしてレクリエーションを行ったことで、限られた時間で一人ひとりが選手と交流しやすい内容に構築することができました。
・直接選手と交流できたため、子どもたちにとても喜んでもらえた。
・多くのメンバーの子どもにも参加してもらうことができた。
・交流内容を簡単なゲームにしたので、小さな子でも積極的に参加できていた。

事業風景



| | |
|---------|--|
| 議 案 名 | 新年挨拶会 |
| 実 施 日 | 2025年2月3日(月) |
| 実 施 場 所 | ニューウェルシティ宮崎 |
| K P I | <p>【計画】 1) (対外)アンケートにて今年度の宮崎JCのことが理解できたの回答が80%以上</p> <p>2) (対内)アンケートにて外部の方との交流ができたの回答が80%以上</p> <p>【結果】 1) アンケートにて今年度の宮崎JCのことが理解できたの回答が100%</p> <p>2) アンケートにて外部の方との交流ができたの回答が83%</p> |
| 対 象 者 | <p>名誉顧問 宮崎県知事 河野 俊嗣 様</p> <p>名誉顧問 宮崎市長 清山 知憲 様</p> <p>名誉顧問 宮崎商工会議所会頭 米良 充典 様</p> <p>公益社団法人 日本青年会議所 8名</p> <p>県内LOM 25名</p> <p>県外LOM 6名</p> <p>宮崎JCシニアクラブ 84名</p> |
| 目 的 | <p>(対内)</p> <p>メンバー全員が今年の活動の方向性を理解し、シニアを中心とした対外の方々と共有することで関係性を構築することを目的としました。</p> <p>(対外)</p> <p>2025年度の政策、事業、運動等の方針を発信し、協力体制を構築することを目的としました。</p> |
| 事 業 内 容 | <p>本来1月に行う予定であったが、京都会議の日程が変更になった影響で2月での開催になった。オープニングは太鼓同好会と通年で使用するコンセプトムービーを放映した。また、多くの来賓来訪の方にご参加いただきご祝辞をいただきました。そして、理事長所信表明を行い、2025年度の宮崎青年会議所の方向性を示しました。</p> |
| 事業目的の検証 | <p>【計画】</p> <p>1) (対外)アンケートにて今年度の宮崎JCのことが理解できたの回答が80%以上</p> <p>2) (対内)アンケートにて外部の方との交流ができたの回答が80%以上</p> <p>【結果】</p> <p>1) アンケートにて今年度の宮崎JCのことが理解できたの回答が100%</p> <p>2) アンケートにて外部の方との交流ができたの回答が83%</p> |

事業風景



| | |
|---------|--|
| 議 案 名 | 2月例会メインアワー「ブロック会長公式訪問」 |
| 実 施 日 | 2025年2月27日(木) |
| 実 施 場 所 | 宮崎市民文化ホール イベントホール |
| K P I | 【計画】 出席率80%以上 【結果】 出席率68% |
| 対 象 者 | 【対内】 宮崎青年会議所メンバー 【対外】 公益社団法人日本青年会議所 九州地区 宮崎ブロック協議会 計12名 合計 90 名 |
| 目 的 | 宮崎ブロック協議会への認知を強め、メンバー個人としてもLOM全体としても新たな方向性を見出し、宮崎ブロック協議会の事業に対して意欲的な参画を促すことを目的としました。 |
| 事 業 内 容 | 宮崎ブロック会長をはじめとする協議会の皆様にご来訪いただき、所属メンバーの紹介や事業の説明、活動方針などについてお話ししていただきました。 |
| 事業目的の検証 | <p>■事業目的に達した点： 宮崎ブロック協議会の活動内容をメンバーに共有することができました。さらに名刺交換する時間を設けることで、宮崎ブロック協議会 会務役員とメンバーが触れ合い宮崎ブロック協議会に出向する機会を提供できました。</p> <p>■事業目的に達しなかった点： 出席率80%以上をKPIとして掲げていましたが、68%となり達成できませんでした。</p> <p>■事業開催による社会的影響(効果)の検証 宮崎ブロック協議会の目指す姿を認識する機会が出来ました。また、会務役員と名刺を交換する時間を設ける事で宮崎ブロック協議会に出向する機会の創出が出来ました。</p> |

事業風景



議 案 名 わんぱく相撲宮崎大会事業報告

実 施 日 2025年4月27日(日)

実 施 場 所 ひなた武道館

対 象 者 【对内】 宮崎青年会議所全メンバー
【対外】 宮崎の子ども

目 的 スポーツを通して勝ったときの喜び、負けたときの悔しさを体感し、スポーツの魅力向上に繋げることを目的としました。

事 業 内 容 宮崎に住み暮らす小学生を対象に相撲を通して勝ったときの喜び、負けたときの悔しさを体感する機会を提供しました。ひなた武道館の施設内にある、本物の土俵にてトーナメント形式で行い、74名もの子どもたちに参加いただきました。

事業目的の検証 事業におけるよかった点：
わんぱく相撲が重んじる「勇気・礼節・感謝」というところで、負けた相手を気遣う場面や礼儀を重んじる姿を伺うことができ、青少年育成という観点から見ても意義のある事業になりました。
昨年度に引き続き、連続での開催となりました。応募時点から「今年も楽しみにしていました」といった期待の声を保護者の方々から複数いただき、わんぱく相撲という事業が市民の皆様徐々に浸透してきていることを実感しました。
本年度は、ひなた武道館の本格的な土俵を使用しての開催となり、事故やけがの懸念もありましたが、大きなトラブルもなく、子どもたちにとって貴重な体験を提供することができました。
当日、勝利を喜ぶ子どもたちの笑顔や、敗戦を悔しがる姿、それを見守る保護者の真剣な表情を目にし、本事業は今後も継続して実施すべきであると強く感じました。
昨年イオンモールでの開催が大盛況だったため、計画時は集客面で大いに不安ありましたが、結果的には必要十分な数の応募があり、場所や開催時期の大幅な違いがあっても集客には大きく影響はない、という検証結果を得ることができたと考えます。ただし、これはチラシだけの効果ではなく、Instagramでの度重なる周知も大きく影響していたと考えます。一方で、男子の6年生だけは3人の参加となってしまう、十分な数を集めることができませんでした。

事業風景



議 案 名

2025 JCI ASPACウランバートル大会参加

実 施 日

2025年6月12日(木)～6月15日(日)

実 施 場 所

シャングリ・ラ ホテル ウランバートル

住所:Olympic Street 1, 19, Ulaanbaatar 14241 モンゴル

K P I

【計画】 1) 現地参加人数20名

2) 宮崎のPR達成率100%

【結果】 1)現地での参加者は16名でKPIは未達成でした。

2)ブース出展の品を全て完売する事ができKPIを達成しました。

対 象 者

【対内】 宮崎青年会議所メンバー

【対外】 なし

目 的

JCI ASPACに参加し、アジア各国のメンバーと交流することで、国際的なコミュニケーション能力を磨き、多様な視点から国際化する地域の課題を解決できる宮崎JCメンバーを増やすことを目的としました。

事 業 内 容

2025年JCI ASPACモンゴル大会にて、宮崎牛や焼酎の提供を通じ宮崎の魅力の世界へ発信しました。約2,000名への振る舞いで全品完売し「会頭特別賞」を受賞。国際交流と共にメンバーの結束力を高めました。

事業目的の検証

■運営面での提言

ジャパンナイトのブース出店では、予定していた数より来客数が多く、お肉用に準備していた皿、爪楊枝が足りなくなりました。急遽、お酒用のコップで代用しましたが、お肉が来客の方に見えない、食べづらそうだった為、次回以降は余裕をもった数の準備を行うべきです。また、参加人数が少なく、担いに手一杯となり、休憩や他ブースを見に行く時間の確保ができなかった。参加人数の確保を行いグループ分け等して、現場を回す必要があります。観光では、各国の参加者が決められた時間を守らないことも多くあり、ツアー会社を通して予約していたとしても、2時間程時間に余裕をもった行動が必要です。

入国の際、お酒を没収されてしまい現地に予定されていた数が届かなかったため、参加メンバーには、手荷物のルールを事前に周知する必要があります。

■予算面での提言

お肉の輸送費に費用がかかり、対応としてお肉のグラム数を変更しました。又、急遽現地での推奨備品費用が必要になり、お肉の部位を変更し予算の対応をしました。事前の情報収集をしっかりと行う必要があります。

■担当委員長所見

宮崎の魅力発信として、宮崎牛と宮崎産焼酎を振舞う事業に参加させていただきました。予算の変動や現地での問題点などもありましたが、来客してくれた方たちが、感動し、日本を通り越して宮崎を知るきっかけとなったと思います。ご協力して頂いたメンバーの皆様、ありがとうございました。

事業風景



| | |
|---------|---|
| 議 案 名 | 中間懇親会 |
| 実 施 日 | 2025年8月18日(月) |
| 実 施 場 所 | ニューウェルシティ宮崎 |
| K P I | <p>【計画】 1)シニアの参加人数50名以上 2)現役メンバーの参加80%以上 3)新入会員の参加100% 4)シニアの現役との交流ができたとの回答が80%以上 5)現役のシニアとの交流ができたとの回答が80%以上</p> <p>【結果】 1)シニアの参加人数50名以上に対し70名 2)現役メンバーの参加80%以上に対し69%(112名) 3)新入会員の参加100%に対し63%(21名) 4)シニアの現役との交流ができたとの回答が80%以上に対し100% 5)現役のシニアとの交流ができたとの回答が80%以上に対し81%</p> |
| 対 象 者 | <p>【対内】 宮崎青年会議所メンバー 162名中112名 69% 内)宮崎青年会議所 2025年度新入会員 33名中21名 63% 宮崎市副市長 永山 英也 様 宮崎青年会議所 シニアクラブメンバー 70名</p> |
| 目 的 | 来賓の方々や宮崎JCシニアクラブの先輩方に現役メンバーの活動報告や新入会員を紹介することを通じて、宮崎JCの活動にご理解をいただき、今後も多方面から協力を得られるより良い組織に成長することを目的としました。 |
| 事 業 内 容 | 2025年度上半期活動報告をはじめ、2025年度新入会員紹介、2026年度理事役員予定者紹介、2026年度理事長予定者挨拶を来賓の方々や宮崎JCシニアクラブの先輩方に向けて発信しました。 |
| 事業目的の検証 | <p>本事業では、新しい取り組みとしてシニアの先輩方の出欠をgoogleフォームから登録できるようにし、また、同時に先輩方の出欠状況をスプレッドシートにて公開しました。欠席を含めた回答の約半数がフォームからの登録でした。出席状況を公開する取り組みに関しては、62%の方が利用され、非常に好意的な意見を多数いただきました。先輩同士の声かけで出席された方もおり、それが例年より多くの先輩が来られた一因ではないかと思えます。準備や管理の手間は増えますが、是非今後も続けてもらえればと思えます。</p> <p>交流に関して、シニアの情報共有シートは積極的な交流のよい材料となったと思えますが、料理がピュッフェスタイルだったことで、料理を取りに行くために時間が取られたことや、歓談の時間が短いことなどもあり、メンバーから交流があまりできなかったという意見も散見しました。時間的に難しかったところはありますが、交流を増やすために、もうひと工夫考える必要があったと感じました。</p> |

事業風景



議 案 名 インターナショナルフェスタ～ワールドテラス2025～

実 施 日 2025年9月27日(土)

実 施 場 所 宮崎公立大学

K P I 【計画】 1) 運営スタッフとして参画し、共生を意識出来た人の割合が90%以上
2) 来場者が外国人との交流・共生を意識出来た人の割合が90%以上
【結果】 1) 共生を意識出来た人の割合が90%
2) 共生を意識出来た人の割合が88%

対 象 者 【対内】 宮崎青年会議所メンバー
【対外】 宮崎公立大学、宮崎国際大学、宮崎市在住外国人、ボランティア学生、来場者
出席者 宮崎青年会議所 90名
学生、外国人 60名
来場者 2000名

目 的 外国人と共創・協働する機会を創ることで、相互理解を深め、外国人との共生を意識する市民を増やすことを目的としました。

事 業 内 容 多文化共生への第一歩を目指し宮崎公立大学内にて日本人と在留外国人とが触れ合える交流を創出しました。

事業目的の検証 ■事業目的に達した点：
事業運営に在留外国人を加え運営側のメンバーにも密な交流が図れました。来場者に関してもふれあい型の各国ブース構築に特化したので外国人との接点を多く創出できました。

■事業目的に達しなかった点：
来場者が外国人との交流・共生を意識出来た人の割合が90%以上を掲げていましたが88%という結果になりました。

■事業開催による社会的影響(効果)の検証
アンケートの「多文化との共生を意識できた」という回答を対外、体内から90%近くいただけたので多文化共生の意識が向上したと感じます。

事業風景



議 案 名 10月例会メインアワー「副会頭講演会」

実 施 日 2025年10月16日(木)

実 施 場 所 アマダンブルー青島

K P I 【計画】 1) 新入会員の出席率が100%
2) 出席者において、出向に興味が出たという回答が80%以上

【結果】 1) 新入会員の出席率は75%
2) 出向に興味が出たの回答が64%

対 象 者 宮崎JCメンバー

目 的 公益社団法人日本青年会議所で副会頭をされている神畑浩子君をお呼びし、副会頭からみた出向の魅力、出向することでしか得られない経験をお話いただき、出向に対する意識を高めることを目的としました。また、女性会員として活躍される神畑副会頭がこれまでに経験されてきたこと、女性会員だからできるJC活動などをお話いただき、女性会員がより活躍するための一助とすることを目的としました。

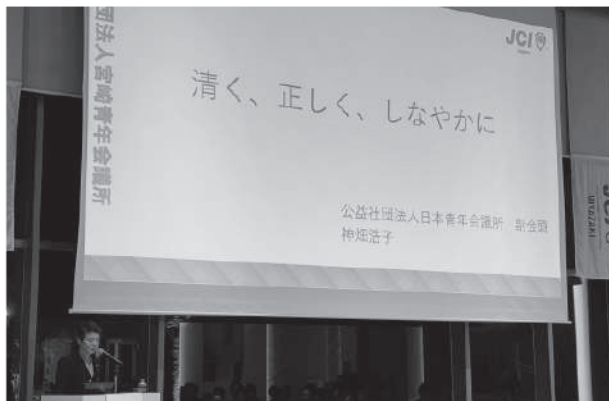
事 業 内 容 公益社団法人 日本青年会議所にて副会頭を担っておられる神畑 浩子 君をお招きして、講演をしていただいた。

事業目的の検証 副会頭に講演いただく内容に関して、調査、ヒアリングが不十分でした。副会頭が女性ということで差別や侮蔑のような扱いを経験されており、こちらが提案した内容の1つであるJCでの女性の活躍は、あまりふさわしくなかったように思います。時間がなかったなりにもう少し副会頭の人となりや周囲のヒアリングを行ったうえで、内容を考えた方がよかったと思います。アンケートで出向に対し前向きだったメンバーが64%でした。目標の80%には届きませんでした。新入会員を含む半数以上のメンバーが出向に興味を持ってくれたというのは、この事業の大きな成果になったと考えます。

日本JCの副会頭という立場の人から話を聞くことができたのは、宮崎JCメンバーにとって非常にプラスに働いたと思います。今回の講演が実現したことを考えると、宮崎JCはやはり恵まれているのだと実感させられました。また、当日は新入会員正会員認証式もあり、多くの新入会員にも副会頭の話聞いてもらうことができ、出向とはどういうものかというのを知ってもらえたのではないかと思います。そしてその中から1人でも多くのメンバーがLOMの外に目を向け、興味を持つことが宮崎JCをより強くより活発にしていくなのだらうと感じました。

本事業は、普段使用する会場とは違う場所を使用することで、いつもとは違う雰囲気を演出し、正会員認証式に特別感を持たせることを目的に会場の選定を行いました。市内から離れることもあり、参加人数が少なくなることが懸念されましたが、他の例会と同程度の出席率を維持することができました。また、アンケートから72%のメンバーが新しい会場に対し好意的な意見でした。新入会員にとって正会員認証式はJC生活で1回しかありません。その認証式が新入会員にとって良い思い出になってくれれば幸いです。

事業風景



議 案 名

宮崎神宮大祭事業

実 施 日

2025年11月1日(土)・2日(日)

実 施 場 所

宮崎市各所

対 象 者

【対内】 宮崎青年会議所全メンバー

【対外】 一般社団法人 檀原青年会議所

目 的

地域の賑わいを創出すること、宮崎JCメンバーとしての所属意識の向上を目的としました。

事 業 内 容

■事業目的に達した点

宮崎神宮大祭は準備段階から様々なシナリオを想定しました。結果的2日間天候にも恵まれ最高のコンディションで二日間事業を実施できました。また大きな事故などもなく市民に対しても賑わいと感動を与える事が出来ました。また卒業生とメンバーとの交流も最後までできました。共に参画した檀原JCの皆様との友情を再認識でき、絆を深める事業となりました。

■目的に達しなかった点

卒業生の行列参加が60%となり目的に達成できませんでした。また行列参加目標の70%以上も1日目49%、2日目44%と目標を達成することができませんでした。

事業目的の検証

1) 卒業生参加率90%以上

卒業生14人に対して当日行列参加できた卒業生9人。60%となっており、KPIを達成する事が出来ませんでした。

2) 卒業生太鼓練習参加率50%以上

卒業生の太鼓練習1回以上参加数は14人に対して12人でした。

85%となっており、KPIを達成することができました。

しかし2回以上の太鼓練習に関しては14人に対して7名でした。

50%となっており、KPIを達成することができませんでした。

3) 行列へのメンバー参加率70%以上

1日目行列参加総数が79名。

49%となっておりKPIを達成することができませんでした。

2日目行列参加総数が72名。

44%となっておりKPIを達成することができませんでした。

事業風景



議 案 名 2025年度青少年職業体験事業

実 施 日 2025年11月10日(月)・13日(木)・14日(金)

実 施 場 所

- ・ヒラソル保育園 住所:宮崎市祇園町二丁目37番
- ・きもの宮下(霧島店) 住所:宮崎市霧島2丁目124
- ・豚の恩返し 住所:宮崎市本郷南方4061
- ・サンクールシステム 住所:東諸県郡国富町嵐田828番地
- ・宮崎保健福祉専門学校 住所:宮崎市清武町木原5706
- ・CMYK 住所:宮崎市柳丸町104-1
- ・サンショー(トロフビリエ宮交シティ店) 住所:宮崎市大淀4目6-28 宮交シティ2階

対 象 者

【対内】 宮崎青年会議所全メンバー
 【対外】 宮崎市教育支援教室の生徒15名

目 的

職場体験を通じて宮崎の企業の魅力を知り、働くことの意義や楽しさを感じ、将来的に宮崎で活躍していただけるような人財を増やすことを目的としました。

事 業 内 容

■事業目的に達した点
 前年度より受入れ企業及び体験希望の生徒数は減少しましたが、事業を遂行することができました。各体験先で体験を終えた生徒に話を聞いてみると、その多くが楽しかったと話しており、受入れ企業、参加生徒ともに良い機会の創出になったと思います。

■目的に達しなかった点
 事業参加者へのアンケート結果での結果として、働くことの意欲を感じた生徒はほとんどかと思いますが、一部の生徒は感じづらい内容だった可能性もあると感じました。もう少し時間を各社2時間以上は体験してもらうことや、体験メニューを事前に考案したりすること、また受入れ企業先を増やし、選択肢を広げることで、生徒がより興味のある分野の体験ができるような設えすること、また興味を惹くような体験活動の内容の記載を少し工夫など改善が必要かと感じました。

事業目的の検証

1)参加した生徒へのアンケートで、「働くことの意義を感じた」という回答が100%となりKPI達成となりました。

2)生徒を受け入れた企業のアンケートで、今後も受け入れたいという回答率が71.4%となり、KPI未達となりました。しかしながら、各社前向きな回答ばかりでした。

事業風景



議 案 名 11月例会メインアワー「家族感謝祭」

実 施 日 2025年11月16日(日)

実 施 場 所 シーガイアコンベンションセンター

対 象 者 【対内】 宮崎青年会議所メンバー
【対外】 宮崎青年会議所メンバーの家族

目 的 家族に最高のおもてなしと感謝の気持ちを伝え、楽しんでいただくことを目的とします。

事 業 内 容 ■事業目的に達した点
ご参加いただいた家族をもてなし感謝の気持ちを伝え、楽しんでいただくことを目的としました。アンケートによれば、回答していただいたご家族全員に「大変満足」「やや満足」とご回答いただき、「沢山のおもてなしをしていただき、子ども供々楽しい時間を過ごすことができました。」等のご意見もいただいた点は、事業目的に達することが出来ました。

■目的に達しなかった点
ご家族の方のご意見の中で、「料理の量が少なく感じた」という意見がありました。料理については昨年と同様の量を準備していただいておりましたが、「バイキング形式で最後ら辺に行ったらご飯系が全く取れなくて残念でした。」との意見もあり、一部の方が取り過ぎていたことも一因だったと思われます。提供方法を工夫するなどして、より満足感を得ていただく必要があると感じました。

事業目的の検証 1)メンバー、家族参加者との合計200人の参加を目指します。
メンバー参加者95名、家族参加者99名(配偶者27名、子ども72名)の合計194名であり、目標を達成することは出来ませんでした。

2)事業後に実施のアンケートにて、メンバー・家族ともに「大変満足」「やや満足」の回答率80%以上を目指します。
メンバーについては「大変満足」61.8%、「やや満足」20.0%の合計81.8%となり、目標を達成することが出来ました。
家族については「大変満足」56.5%「やや満足」39.1%の合計95.6%となり、目標を達成することが出来ました。

事業風景



議 案 名 AWARDS MIYAZAKI 2025

実 施 日 2025年11月16日(日)

実 施 場 所 シーガイアコンベンションセンター

K P I 【計画】表彰式を通して、今後のJC活動に対する意欲が高まった、という回答が80%以上

【結果】事業実施後のアンケートにて、今後のJC活動に対する意欲が高まったという回答が90%

対 象 者 【対内】 宮崎青年会議所メンバー

【対外】 なし

目 的 表彰を受けたメンバー及び受賞者の姿を見たメンバーが10年後、20年後の未来を創っていくためにも他人任せでは無く、地域課題に対して当事者意識を持って取り組むことと今後のJC活動により一層意欲を持てるようにすることを目的としました。

事 業 内 容 本事業では、2025年度の活動を振り返り、組織と個人の功績を称える各種表彰を実施しました。会議体・委員会の部では、最も顕著な成果を上げた組織を表彰する「最優秀会議体・委員会賞」と、優れた成果を残した組織を表彰する「優秀会議体・委員会賞」を設けました。個人の部では、新入会員以外で最も活躍したメンバーを称える「最優秀メンバー賞(グランプリ)」および、優れた活躍を見せたメンバーを称える「優秀メンバー賞(準グランプリ)」を選出しました。加えて、会員拡大に貢献した「最優秀拡大貢献賞」、新会員の活躍を称える「最優秀新人賞」、スローガンにふさわしい行動を評価する「全員力賞」、Instagram投稿企画の成果を称える「SNS賞」などの特別賞も設け、1年間の多様な挑戦と貢献を評価する機会としました。

事業目的の検証 事業目的に達した点:
事業実施後のアンケートにて、今後のJC活動に対する意欲が高まったという回答が90%となり目標の80%を上回り達成することができました。

事業目的に達しなかった点:
受賞できなかったことにより高まらなかったとの意見があったため、より多くの人に賞が渡るように賞のバリエーションが適切かもっと慎重に検討すべきでした。

事業風景



議 案 名 12月例会メインアワー 卒業式

実 施 日 2025年12月17日(水)

実 施 場 所 FLOOR 住所:宮崎市中央通3-47 東洋ビル5階

K P I

【計画】

- 1) 卒業生の全員参加
- 2) アンケートにおいて卒業生の「卒業式を楽しめた」という回答100%
- 3) アンケートにおいて現役メンバーの「卒業生に感謝を伝えられた」という回答90%以上

【結果】

1) 卒業生の全員参加
卒業生は14名中14名参加であり、KPIを達成することができました。

2) アンケートにおいて卒業生の「卒業式を楽しめた」という回答100%
「卒業式を楽しむことができましたか。」という設問に対し「できた」という回答が100%であり、KPIを達成することができました。

回答数.参加者14名中14名回答

3) アンケートにおいて現役メンバーの「卒業生に感謝を伝えられた」という回答90%以上
「卒業生へ感謝を伝えることができましたか。」という設問に対し「できた」という回答は93.1%であり、KPIを達成することができました。
一方で「どちらともいえない」という回答が6%、「できなかった」という回答が0.9%ありました。

回答数.参加者117名中117名回答

成果目標検証結果アンケート
参加者数131名 アンケート回答数131名 100%回答いただきました。

対 象 者

【対内】 卒業生14名中14名参加 現役メンバー142名中117名参加

目 的

卒業生に宮崎JCでの最後の思い出を創っていただき、活動を通して得られた経験を現役メンバーに承継していただくことで、次年度以降の活動へいかすことを目的としました。

事 業 内 容

長年貢献していただいた卒業生を盛大に送り出すことで、卒業生の最高の思い出を作り、現役メンバーにおいてこの組織で卒業を迎えたいと思われる組織を目指しました。

事業目的の検証

卒業生にとっての最後の事業となる卒業式にて涙する場面、笑顔の場面、過去を振り返る貴重な場面を現役メンバーも体感でき正に全員力を体現できたと思っておりました。当委員会メンバーが本当に最高の卒業式にしたと一致団結してくれたことに感謝しております。その中でも準備に拘り、担当振り分け、リハーサルなど入念にすることができました。全体を通して卒業生やメンバーからすばらしい卒業式だったと声をかけていただき、達成感を味わえました。それらは全て手伝ってくれた委員会メンバー、頑張ってくれてくれたバンドメンバー、裏方で手伝ってくれたメンバー全員の協力でやりきることができました。皆様のご協力をいただいたおかげで、最終的には卒業生の思い出に残る卒業式を実施することができたと思えました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

事業風景



議 案 名

共存共栄推進事業 WHYJAYCEE育成事業

実 施 日

2025年3月～11月

実 施 場 所

宮崎市民文化ホール、宮崎中央公民館

K P I

【計画】

- 1)宮崎JCの活動や歴史を理解できたアカデミー会員80%
- 2)宮崎JC活動への参画意欲が向上したアカデミー会員アンケート回答80%
- 3)JCの理念を理解し、自己成長を実感できたアンケート回答80%

【結果】

- 1)宮崎JCの活動や歴史を理解できたアカデミー会員
「理解できた」が30.2%、「やや理解できた」が62.3%、合計92.5%となっており、KPIを達成する事が出来ました。
- 2)宮崎JC活動への参画意欲が向上したアカデミー会員アンケート回答
「他の予定を調整してでも積極的に参加したい」が22.6%、「時間や都合が合えば参加したい」が75.5%、合計98.1%となっており、KPIを達成する事が出来ました。
- 3)JCの理念を理解し、自己成長を実感できたアンケート回答
「WHY JAYCEE事業を通して、JCの理念を理解できたか」という問いに対して、「理解できた」が32.1%、「やや理解できた」が56.6%、合計88.7%となりました。
また、「WHY JAYCEE事業を通して、自己成長を実感できたか」という問いに対して、「とても実感できた」が17%、「実感できた」が50.9%となりました。
JCの理念理解についてはKPI達成しましたが、自己成長の実感についてはKPI達成することはできませんでした。

対 象 者

(対内)宮崎JCメンバー

- 03月例会メインアワー 参加者96名(71.1%)
- 04月例会メインアワー 参加者97名(72.2%)
- 05月例会メインアワー 参加者96名(71.1%)
- 06月例会メインアワー 参加者115名(79.1%)

目 的

自律的に動くリーダーを育成し、街により良い変化をもたらす運動を起こすことのできるJAYCEEを増やすことを目的としました。

事 業 内 容

■基本方針

下記2つのテーマを柱として、事業を構築しました。

- ①JCじゃないといけない理由を発見させます。
- ②自己成長を実感するJAYCEEを育成します。

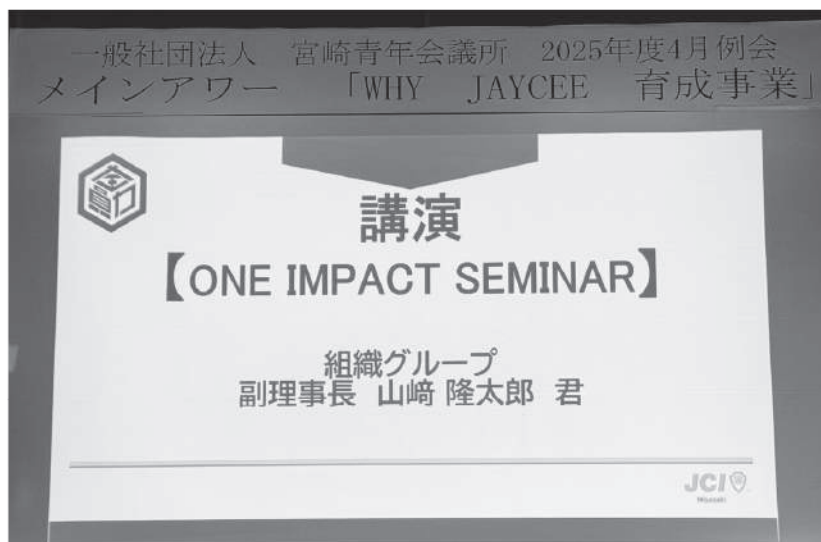
■事業概要

74年間の歴史ある宮崎JCの活動を通して、JCの使命を理解し、運動を起こす力を身につけていくことで、新時代に繋がるリーダーを育成する事業でした。
2025年度は、インプットした知識をより効果的に実践できるよう、インプット後のアウトプットをより実践的な形で行いました。

事業目的の検証

年間プログラムとして構築する場合、プログラムに使うことのできる時間は限られているため、インプットとアウトプットをプログラムで両立させることは難しい。育成事業は毎年行うべきかのであるため、これまでに行われてきた事業内容を踏まえ、今年度はどの点を重視すべきかの取捨選択を行い、重視すべきポイントに集中、深掘りしたプログラムを構築していくべきである。その年の委員長が宮崎JCメンバーの何が課題なのかを予定段階から検討して事業構築すると尚よい結果に変わると思いました。2025年育成事業を担当する中で当委員会メンバーの成長には個人的には大変嬉しかったです。共通のゴールを明示して全員で達成に向けて行動する事こそ、JCの成長と発展の機会だと事業を通して実感しました。本当にありがとうございました。

事業風景



議 案 名

国際感覚を培う推進事業

実 施 日

2025年4月7日(月)～10月18日(土)

実 施 場 所

宮崎大学・シンガポール・宮崎公立大学・アートセンター

K P I

【計画】

- 1)参加者:国際経験を通して、コミュニケーション能力に自信がついた100%
- 2)参加者:プログラムを通して今後も国際交流をしたいと思った100%
- 3)保護者:プログラムを通してお子様の成長や変化を感じた100%

【結果】

- 1)参加者:国際経験を通して、コミュニケーション能力に自信がついた100% KPIを達成しました
- 2)参加者:プログラムを通して今後も国際交流をしたいと思った100% KPIを達成しました
- 3)保護者:プログラムを通してお子様の成長や変化を感じる事が100% KPIを達成しました

対 象 者

【対内】 宮崎青年会議所メンバー

【対外】 宮崎に住み暮らす青少年18名と在住外国人8名、JCIポート、JCIマリーナ

目 的

国際経験が出来る場を提供することで、青少年の国際感覚を培い地域にグローバルな視野を持つ人財が増えることを目的としました。

事 業 内 容

本プログラムは、宮崎に住み暮らす小学4～6年生を対象に、次世代のグローバルリーダーに必要とされる「主体性」「柔軟性」「異文化理解」を育むことを目的として実施されました。全7回にわたる段階的なプログラムを通じ、事前学習で培った語学力や知識を、シンガポールへの渡航(GO TO SINGAPORE)や、宮崎でのホームステイを通じた留学生との交流(WELCOME TO MIYAZAKI)という実体験の場でアウトプットすることで、日本人としてのアイデンティティを確立しながら、世界へ挑戦するチャレンジ精神を養いました。

事業目的の検証

本プログラムを通じて、子どもたちの中に「自ら考え、行動し、意思決定する力」、すなわち自発性が飛躍的に向上したことが、最大の成果です。

私たちは、事前学習から保護者同席の廃止や大人の過度な関与を控える方針を徹底しました。その結果、シンガポールでの空港移動や引率者なしのホームビジットといった高いハードルに対し、子どもたちは互いに協力し、知恵を絞り、困難を乗り越える成功体験を積み重ねました。当初の不安や緊張は、ホストファミリーとの温かい交流や、公共の場での自律的な行動を通じて、「自分にも出来る」という強い自信へと変わりました。帰国時の生き生きとした表情や、自主的に感謝の英文を手紙に綴る姿は、その確かな成長を物語っています。

また、国内での留学生受け入れ体験は、参加者だけでなくホストファミリー全体に異文化理解の機会を提供し、国際交流の輪を地域へと広げることが出来ました。

一方で、次年度への課題も明確になりました。事業説明会での日程重複の反省や、急なキャンセルに備えた予備日の設定など、事前調整の徹底が必要です。さらに、「おやつ情報シート」などに見られた保護者依存を解消するため、子ども自身が主体的に調査や思考出来るような指導内容と時間を確保し、活動の質をさらに高める必要があります。

事業風景



議 案 名

7月参議院議員選挙啓発事業(主権者教育)

実 施 日

2025年6月3日(火)～8月29日(金) 合計11日間

実 施 場 所

・宮崎県立宮崎海洋高等学校
住所:宮崎県宮崎市日の出町1

・宮崎学園高等学校
住所:宮崎県宮崎市昭和町3

・宮崎県立宮崎農業高等学校
住所:宮崎県宮崎市大字恒久春日田1061

・宮崎県立宮崎商業高等学校
住所:宮崎県宮崎市和知川原3丁目24番地

対 象 者

【対内】 宮崎青年会議所メンバー

【対外】 宮崎海洋高校150名、宮崎商業高校242名、宮崎農業高校150名、
宮崎学園高校11名

目 的

政治に興味を持っていただけるような啓発活動を通して、若い世代に興味及び関心を持ってもらい、政治参画意識を向上させることを目的としました。

事 業 内 容

7月に実施された参議院議員選挙に向けて、特に投票率の低い若い世代向けに啓発事業を行いました。宮崎市内の各大学の選挙啓発サークルと共同で高校生に対して主権者意識向上に向けたカリキュラムを実施。
公益社団法人日本青年会議所の主権者教育向上カリキュラムを活用しました。

事業目的の検証

■事業目的に達した点

目標以上の宮崎市内の高校4校で実施することができました。

多くの高校で100名以上の学生に受講いただき、多くの学生に啓発することができました。

■目的に達しなかった点

アンケートで政治及び選挙に興味を持ったという回答が90%以上を目標としていましたが、平均が77%となりました。

主な要因としては、題材が少し身近に感じづらい内容であったためかと考えます。県内の事例やローカルの話題でカリキュラムを構築できれば、より身近に感じていただけるかと感じました。

1)政治および選挙に興味を持ったという回答が全体平均では、78%となり、KPI未達となりました。

2)宮崎市内の高校4校で実施することができ、KPIを達成しました。

3)政策甲子園へのエントリーが1校のみとなり、KPI未達となりました。

日本青年会議所の主権者意識向上委員会の案内にて宮崎市からは宮崎西高校も設定テーマ部門でエントリーしました。こちらは福岡県糸島市で行われた九州沖縄地区予選大会まで進みましたが、決勝大会までの進出は叶いませんでした。

事業風景



出向者報告

公益社団法人 日本青年会議所
国家グループ
主権者意識向上委員会
委員長 金本 純一

2025年度主権者意識向上委員会に出向させていただきました。

委員会では、若者の主権者意識を向上させる為に、全国の高校生が自ら考え、選び、行動する機会を提供する場を創出しました。第三回全国高校生政策甲子園を軸に、社会課題を自分ごととして捉え、政策として形にする学びの場を構築しました。全国から過去最多の参加が集まり、高校生たちは調査を深め、議論を重ね、社会をより良くしたいという真摯な想いを私たちに示してくれました。

また、審査や投票のみならず、各チームが提案した政策を実際に首相や大臣へ届ける機会を創出し、若者の声が行政に届く実感を得られる流れをつくることができました。高校生が自らの言葉で未来を語り、その場にいる全員が希望を感じる瞬間をいくつも目にしました。

一年を通じて確信したのは、若者は決して無関心ではなく、正しい機会と伴走があれば大きく成長し、社会を動かす力を持つということです。また、私自身も大きくリーダーシップの成長の経験をさせていただいた1年となりました。

最後に、ご協力いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

公益社団法人 日本青年会議所
国家グループ
主権者意識向上委員会
総括幹事 松田 陵治

2025年度、主権者意識向上委員会において、金本委員長のもと総括幹事として出向させていただきました。若者の主権者意識の向上を目的に、3回目の開催となる全国高校生政策甲子園をはじめ、高校生を対象とした主権者意識向上のためのカリキュラム推進事業の構築・運営に携わりました。全国規模の事業を通じて、主権者教育の重要性と可能性を実感するだけでなく、JCの価値や可能性を認識した一年となりました。

総括幹事としては、金本委員長のサポート役を務めるとともに、毎月の委員会構築・運営、さらには各事業における他団体との連携や進捗管理など、委員会全体を円滑に進める役割を担いました。

JC入会4年目にして初めての出向ということもあり、当初は不安や戸惑いだけでしたが、各事業、委員会を通して全国にたくさんの仲間、そして同志ができました。人や事業に対する真摯な姿勢、情熱あふれる言動に触れる中で、自分自身のこれまでの価値観や規模感の小ささに気づかされる場面も多かったです。この経験は、今後のJC活動はもちろんのこと、自身の視野を広げ、人として成長するための貴重な経験となりました。

卒業生である金本委員長の最後の涙が、一年間の達成感と大きなやりがいを感じさせてくれました。誘っていただいた金本委員長をはじめ、出向を後押ししていただいた先輩方、一緒に出向してくれた仲間から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

出向者報告

公益社団法人 日本青年会議所
国際グループ
国際ビジネス推進委員会
副委員長 柿塚 健太郎

2025年度、公益社団法人日本青年会議所 国際グループ 国際ビジネス推進委員会の副委員長として出向させていただきました。

委員会の担いとしては、JCI の国際的なネットワークを活用して地域に眠る魅力を世界へ発信し、日本と世界各国とのビジネス構築とその発展による地域経済の活性化を目的とした海外でのビジネスマッチング事業の実施、日本国内の地方空港が国際化することで地方に所在する企業、団体が海外進出に目を向けられるかの啓発事業を実施してまいりました。

私の受け持った小委員会ではビジネスマッチング事業の支援、地方空港国際化のための日本各地での啓発事業を行いました。ビジネスマッチングではシンガポール、ベトナム、モンゴルの3か国、地方空港国際化では北は北海道から南は沖縄まで、1年間目まぐるしく飛び回りましたが、宮崎からも多くの出向者、ビジネスマッチング参加者を輩出いただき支えていただいただけでなく、ビジネスマッチングに参加していただいたメンバーには実際にマッチング成立した方もいらっしゃる等、出向、JCIのスケールメリットで繋がる縁をメンバーにも感じていただけたのではないかと自負しております。

私自身4年連続での日本本会の国際グループ出向でしたが、本年度初めてスタッフとしての出向となり、LOMとは異なる事業構築の難しさ、日本本会の事業スケールの大きさに尻込みするところもありましたが、共に駆け抜けたスタッフ、メンバーから助けられ、学びの多い一年となりました。貴重な機会をいただきましたことに感謝しております。ありがとうございました。

公益社団法人 日本青年会議所
国際グループ
JCI関係委員会
広報幹事 岩倉 誠吾

2025年、副理事長としての職を預かりながら、宮崎JCとしては数十年ぶりとなるJCI関係委員会に幹事団の1人として出向をいたしました。日本JCが創設されてから1度も委員会名が変わっていない委員会の一員として、LOMでは享受できない数々の「国際の機会」を与えていただきました。モンゴル、チュニジアにおいても日本JCの本部運営を行い、年間を通してJCIの事業に多く関わって参りました。個人的にも長いJC生活の最後に通常の経営などでは得ることの出来ない大きな経験を得ることが出来たのも野村理事長を始めとする常任以上、理事メンバーのお力添えがあったのことに改めて感謝申し上げます。また、共に出向いただいた日高君、加藤君、朽木君、長友君、何よりモンゴルでもチュニジアでも私を支えてくれた河野君。皆さんのおかげで一年やり通せました。2026年も当委員会に八田君をはじめ3名を輩出いただいた山崎理事長にも改めて感謝申し上げます。

出向者報告

公益社団法人 日本青年会議所
九州地区 宮崎ブロック協議会
運営専務 二宮 雅和

2025年度は公益社団法人日本青年会議所九州地区宮崎ブロック協議会において、運営専務として出向させていただきました。宮崎ブロック協議会では、県内各地から出向してきた役員を取り纏め、会長が掲げる目標の達成に向けて全体を運営してまいりました。この役割を通じて、リーダーシップの重要性やチーム作りの奥深さを実感することができました。

出向の特性上、他のLOMから出向されている会長をサポートするという経験は、普段の私たちの活動では味わえない貴重なものでした。特に、各地域から集まった役員たちと1から人間関係を構築するプロセスは、時には厳しさを伴いながらも、時には優しさを持って関わるなど、非常に多様な人間関係を築くことの難しさを痛感させられました。

このような経験は、今後の私の人間関係やリーダーシップに対する考え方に大きな影響を与えることになると確信しています。

今回の出向で得た経験は、間違いなく私自身の成長の糧となりました。また、出向を通じて県内各地に新しい仲間ができたことは、私にとって非常に大きな財産です。これからもこの貴重な経験を活かし、さらなる成長を目指していきたいと考えています。

2025年度 収支決算報告書



明るい未来への道を
全員で創ろう

2025年度 JC登録会費決算

(自2025年1月1日 至2025年12月31日 単位:円)

| (1) 収入の部 | | 2025年度 | 2025年度 | 対比 | 摘要 | | |
|----------|----------------|------------|------------|-----------|--------|---|----------|
| 大科目 | 中科目 | 決算 | 予算 | | | | |
| 会計収入 | 登録会費 | 7,920,000 | 8,040,000 | 120,000 | 60,000 | × | 134 名 |
| | 登録会費(新入会員) | 1,400,000 | 1,500,000 | 100,000 | 50,000 | × | 30 名 |
| | 新年挨拶会(シニア登録費) | 840,000 | 840,000 | 0 | 10,000 | × | 84 名 |
| | 新年挨拶会(来賓登録費) | 410,000 | 410,000 | 0 | 10,000 | × | 41 名 |
| | 新年挨拶会(新入会員登録費) | 20,000 | 20,000 | 0 | 10,000 | × | 2 名 |
| | 中間懇親会(シニア登録費) | 700,000 | 700,000 | 0 | 10,000 | × | 70 名 |
| | 家族感謝祭 | 475,000 | 475,000 | 0 | 5,000 | × | 95 名 |
| | 家族感謝祭(アルコール代) | 19,800 | 19,800 | 0 | 1,100 | × | 18 名 |
| | 計 | 11,784,800 | 12,004,800 | 220,000 | | | |
| 雑収入 | 受取利息収入 | 63 | | ▲ 63 | | | |
| | 計 | 63 | 0 | ▲ 63 | | | |
| 繰入金収入 | 一般会計繰入金収入 | 250,000 | | ▲ 250,000 | | | 一般会計より繰入 |
| | 計 | 250,000 | 0 | ▲ 250,000 | | | |
| 当期収入合計 | | 12,034,863 | 12,004,800 | ▲ 30,063 | | | |
| 前期繰越収支差額 | | | | 0 | | | |
| 収入合計 | | 12,034,863 | 12,004,800 | ▲ 30,063 | | | |



| (2) 支出の部 | | 2025年度 | 2025年度 | 対比 | 摘要 | | |
|----------|-------------------|------------|------------|------------|---------|---|------------------|
| 大科目 | 中科目 | 決算 | 予算 | | | | |
| 登録会費 | 宮崎ブロック大会登録費(日向) | 1,340,000 | 1,340,000 | 0 | 10,000 | × | 134 名 |
| | 九州地区大会登録費(延岡) | 1,072,000 | 1,072,000 | 0 | 8,000 | × | 134 名 |
| | 全国大会登録費(佐賀) | 1,662,500 | 1,662,500 | 0 | 12,500 | × | 133 名 |
| | 全国大会大懇親会費 | | 0 | 0 | 5,000 | × | 0 名 |
| | ASPAC登録費(ウランバトル) | 864,000 | 864,000 | 0 | 54,000 | × | 16 名 |
| | ASPACブース出展料 | 150,000 | 150,000 | 0 | 160,000 | | 1 |
| | サマーコンファレンス登録費(横浜) | 600,000 | 600,000 | 0 | 10,000 | × | 60 名 |
| | 世界会議登録費(チュニジア) | 1,300,500 | 841,500 | ▲ 459,000 | 76,500 | × | 11 名 |
| | 世界会議ブース出展料(チュニジア) | 150,000 | 150,000 | 0 | 150,000 | | 1 |
| | 新年挨拶会(食事代) | 1,452,000 | 1,452,000 | 0 | 6,050 | × | 240 名 |
| | 新年挨拶会(フリードリンク代) | 633,600 | 633,600 | 0 | 2,640 | × | 240 名 |
| | 中間懇親会 | 1,058,000 | 1,197,000 | 141,000 | 7,000 | × | 171 名 |
| | 家族感謝祭 | 962,100 | 1,392,000 | 429,900 | 8,000 | × | 174 名 |
| | 姉妹JC・各地周年・その他 | 766,663 | 656,663 | ▲ 110,000 | | | 登録料(10000 × 30名) |
| | | 計 | 12,009,363 | 12,011,263 | 1,900 | | |
| 繰入金支出 | 一般会計繰入支出 | 25,500 | | ▲ 25,500 | | | 一般会計へ移動 |
| | 計 | 25,500 | | ▲ 25,500 | | | |
| 当期支出合計 | | 12,034,863 | 12,011,263 | ▲ 23,600 | | | |
| 当期収支差額 | | 0 | ▲ 6,463 | ▲ 6,463 | | | |
| 次期繰越収支差額 | | 0 | ▲ 6,463 | ▲ 6,463 | | | |

監査報告書

2026年1月13日

一般社団法人 宮崎青年会議所
2025年度理事長 野村 翔悟 殿

一般社団法人 宮崎青年会議所
2025年度監事

西岡 幸則 
星 山 司 

私達は、一般社団法人宮崎青年会議所の2025年度1月1日から2025年度12月31日までの会計年度における業務の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査方法の概要

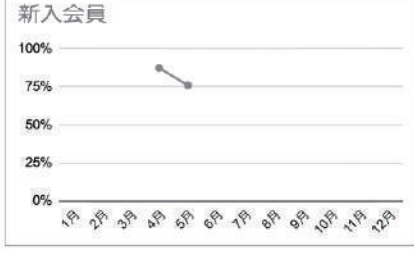
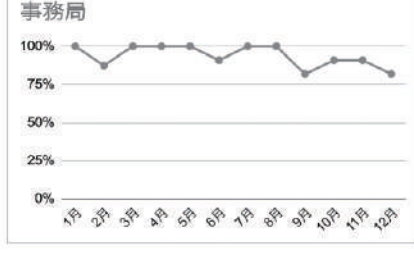
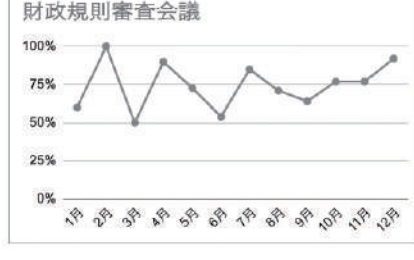
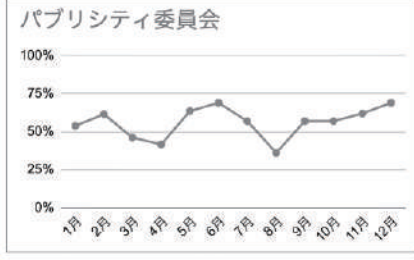
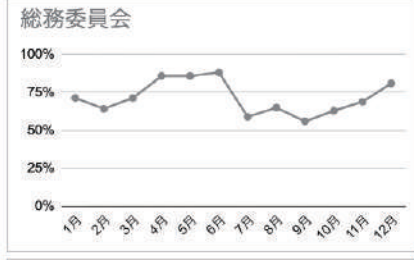
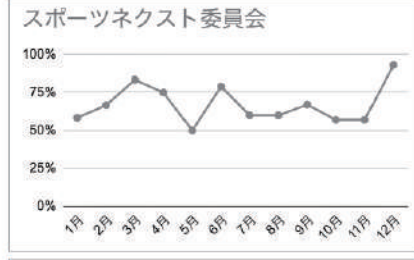
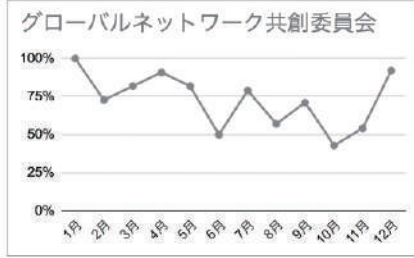
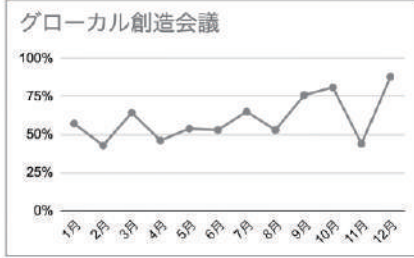
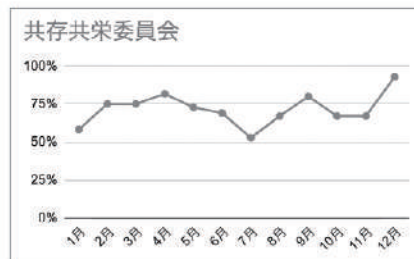
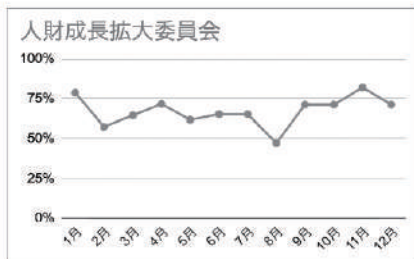
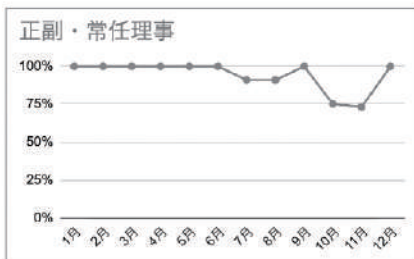
- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴収し、関係書類など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は公益法人会計基準及び定款に従い、一般社団法人宮崎青年会議所の収支の状況及び財産の状態を適正に示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

一般社団法人宮崎青年会議所 2025年度 出席率一覧表

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 平均 |
|------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 正副・常任理事 | 11人 | 11人 | 11人 | 11人 | 11人 | 11人 | 10人 | 10人 | 11人 | 10人 | 8人 | 12人 | 11人 |
| | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 91% | 91% | 100% | 75% | 73% | 100% | 94% |
| 人財成長拡大委員会 | 11人 | 8人 | 9人 | 10人 | 8人 | 13人 | 11人 | 8人 | 12人 | 12人 | 14人 | 12人 | 11人 |
| | 79% | 57% | 64% | 71% | 62% | 65% | 65% | 47% | 71% | 71% | 82% | 71% | 67% |
| 共存共栄委員会 | 7人 | 9人 | 9人 | 9人 | 8人 | 11人 | 8人 | 10人 | 12人 | 10人 | 10人 | 14人 | 10人 |
| | 58% | 75% | 75% | 82% | 73% | 69% | 53% | 67% | 80% | 67% | 67% | 93% | 72% |
| グローバル創造会議 | 8人 | 6人 | 9人 | 6人 | 7人 | 9人 | 11人 | 9人 | 13人 | 7人 | 14人 | 9人 | 9人 |
| | 57% | 43% | 64% | 46% | 54% | 53% | 65% | 53% | 76% | 81% | 44% | 88% | 60% |
| グローバルネットワーク共創委員会 | 11人 | 8人 | 9人 | 10人 | 9人 | 7人 | 11人 | 8人 | 10人 | 6人 | 7人 | 12人 | 9人 |
| | 100% | 73% | 82% | 91% | 82% | 50% | 79% | 57% | 71% | 43% | 54% | 92% | 73% |
| 地域課題解決委員会 | 6人 | 6人 | 8人 | 5人 | 6人 | 12人 | 8人 | 11人 | 9人 | 10人 | 10人 | 14人 | 9人 |
| | 46% | 46% | 62% | 42% | 46% | 86% | 50% | 69% | 56% | 63% | 63% | 81% | 59% |
| スポーツネクスト委員会 | 7人 | 8人 | 10人 | 9人 | 6人 | 11人 | 10人 | 9人 | 10人 | 8人 | 8人 | 12人 | 9人 |
| | 58% | 67% | 83% | 75% | 50% | 79% | 60% | 60% | 67% | 57% | 57% | 93% | 67% |
| 総務委員会 | 10人 | 9人 | 10人 | 12人 | 12人 | 15人 | 10人 | 11人 | 9人 | 10人 | 11人 | 13人 | 11人 |
| | 71% | 64% | 71% | 86% | 86% | 88% | 59% | 65% | 56% | 63% | 69% | 81% | 72% |
| パブリシティ委員会 | 7人 | 8人 | 6人 | 5人 | 7人 | 9人 | 8人 | 5人 | 8人 | 8人 | 8人 | 9人 | 7人 |
| | 54% | 62% | 46% | 42% | 64% | 69% | 57% | 36% | 57% | 57% | 62% | 69% | 56% |
| 財政規則審査会議 | 6人 | 10人 | 5人 | 9人 | 8人 | 7人 | 11人 | 10人 | 9人 | 10人 | 10人 | 12人 | 9人 |
| | 60% | 100% | 50% | 90% | 73% | 54% | 85% | 71% | 64% | 77% | 77% | 92% | 74% |
| 事務局 | 8人 | 7人 | 8人 | 8人 | 7人 | 10人 | 10人 | 11人 | 9人 | 10人 | 10人 | 7人 | 9人 |
| | 100% | 88% | 100% | 100% | 100% | 91% | 100% | 100% | 82% | 91% | 91% | 82% | 94% |
| 新入会員 | | | | 28人 | 25人 | →配属 | | | | | | | 27人 |
| | | | | 88% | 76% | | | | | | | | 82% |
| 合計 | 92人 | 90人 | 94人 | 122人 | 114人 | 115人 | 108人 | 102人 | 112人 | 107人 | 103人 | 131人 | 108人 |
| | 71% | 68% | 71% | 76% | 71% | 72% | 68% | 63% | 70% | 68% | 66% | 86% | 71% |



→新入会員

| No | 委員会 | 名前 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 出席率 | |
|----|------------------|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|------|------|
| 1 | 正副・常任理事 | 野村 翔悟 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | |
| 2 | 正副・常任理事 | 河野 幸治 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 正副・常任理事 | 山崎 隆太郎 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | |
| 4 | 正副・常任理事 | 柿塚 健太郎 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | |
| 5 | 正副・常任理事 | 岩倉 誠吾 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | |
| 6 | 正副・常任理事 | 後藤 健太 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | |
| 7 | 正副・常任理事 | 河野 宏輝 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | |
| 8 | 正副・常任理事 | 内門 洋稀 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | |
| 9 | 正副・常任理事 | 田所 伸吾 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | |
| 10 | 正副・常任理事 | 椎葉 賢也 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 83% | |
| 11 | 正副・常任理事 | 曾地 英樹 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | |
| 12 | 正副・常任理事 | 中村 友哉 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | |
| 13 | 人財成長拡大委員会 | 小島倉 啓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | 委員長 |
| 14 | 人財成長拡大委員会 | 若菜 敬匡 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 87% | 副委員長 |
| 15 | 人財成長拡大委員会 | 甲斐 衣美 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | 総括幹事 |
| 16 | 人財成長拡大委員会 | 長井 健太 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | 運営幹事 |
| 17 | 人財成長拡大委員会 | 青井 翔太 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 75% | |
| 18 | 人財成長拡大委員会 | 赤木 徹 | | | | | | | | | | | | | 100% | 新入会員 |
| 19 | 人財成長拡大委員会 | 岩本 菜月 | | | | | | | | | | | | | 100% | 新入会員 |
| 20 | 人財成長拡大委員会 | 門口 将宏 | ○ | | | | | | | | | | | | 75% | |
| 21 | 人財成長拡大委員会 | 木下 南紀聡 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | 100% | |
| 22 | 人財成長拡大委員会 | 黒木 悠矢 | ○ | | | | | | | | | | | | 87% | |
| 23 | 人財成長拡大委員会 | 児玉 見祥 | ○ | | ○ | | | | | | | | | | 87% | |
| 24 | 人財成長拡大委員会 | 西反田 朱加 | | | | | | | | | | | | | 89% | 新入会員 |
| 25 | 人財成長拡大委員会 | 田中 大樹 | | | | | | | | | | | | | 0% | 新入会員 |
| 26 | 人財成長拡大委員会 | 野田 敬之 | | | | | | | | | | | | | 33% | |
| 27 | 人財成長拡大委員会 | 日高 淳志 | | | | | | | | | | | | | 9% | |
| 28 | 人財成長拡大委員会 | 松本 匡のか | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | |
| 29 | 人財成長拡大委員会 | 松田 幸久 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | 17% | |
| 30 | 共存共栄委員会 | 鶴田 隆二 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 83% | 委員長 |
| 31 | 共存共栄委員会 | 樽垣 泰介 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | 副委員長 |
| 32 | 共存共栄委員会 | 福島 大地 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | 総括幹事 |
| 33 | 共存共栄委員会 | 井上 貴博 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | 運営幹事 |
| 34 | 共存共栄委員会 | 内山 悠太郎 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 83% | |
| 35 | 共存共栄委員会 | 井手 宏 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | |
| 36 | 共存共栄委員会 | 伊藤 洋 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 75% | |
| 37 | 共存共栄委員会 | 坂元 亜樹奈 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | 42% | |
| 38 | 共存共栄委員会 | 高橋 良輔 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | 新入会員 |
| 39 | 共存共栄委員会 | 谷 優輝 | | | | | | | | | | | | | 56% | 新入会員 |
| 40 | 共存共栄委員会 | 鶴田 佳菜子 | ○ | | | | | | | | | | | | 17% | |
| 41 | 共存共栄委員会 | 中本 竜史 | | | | | | | | | | | | | 0% | |
| 42 | 共存共栄委員会 | 野崎 勇作 | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 87% | 新入会員 |
| 43 | 共存共栄委員会 | 平原 絵理 | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | 新入会員 |
| 44 | 共存共栄委員会 | 朴 照哲 | | | | | | | | | | | | | 75% | |
| 45 | グローバル創造会議 | 藤元 克希 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | 議長 |
| 46 | グローバル創造会議 | 近藤 伸一 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 67% | 副議長 |
| 47 | グローバル創造会議 | 中原 隆宏 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | 総括幹事 |
| 48 | グローバル創造会議 | 片地 昭成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | 運営幹事 |
| 49 | グローバル創造会議 | 安藤 浩貴 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | |
| 50 | グローバル創造会議 | 祝出 梅果 | | | | | | | | | | | | | 100% | 新入会員 |
| 51 | グローバル創造会議 | 岩切 佑伊 | | | | | | | | | | | | | | 産休 |
| 52 | グローバル創造会議 | 門分 大樹 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | 58% | |
| 53 | グローバル創造会議 | 河野 尚成 | | | | | | | | | | | | | 0% | |
| 54 | グローバル創造会議 | 梶島 英展 | ○ | | | | | | | | | | | | 58% | |
| 55 | グローバル創造会議 | 児玉 真吾 | | ○ | | | | | | | | | | | 75% | |
| 56 | グローバル創造会議 | 齋藤 慧太 | | | | | | | | | | | | | 67% | 新入会員 |
| 58 | グローバル創造会議 | 長友 慶一郎 | | ○ | | | | | | | | | | | 50% | |
| 59 | グローバル創造会議 | 原田 健太 | | ○ | | | | | | | | | | | 78% | 新入会員 |
| 60 | グローバル創造会議 | 南 竜一 | | | | | | | | | | | | | 0% | |
| 61 | グローバル創造会議 | 守部 太朗 | | | | | | | | | | | | | 42% | |
| 62 | グローバル創造会議 | 矢野 祐人 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 75% | |
| 63 | グローバルネットワーク共創委員会 | 日高 優美 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 75% | 委員長 |
| 64 | グローバルネットワーク共創委員会 | 高井 礼 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 75% | 副委員長 |
| 65 | グローバルネットワーク共創委員会 | 河野 文也 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 75% | 総括幹事 |
| 66 | グローバルネットワーク共創委員会 | 馬場 功 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 83% | 運営幹事 |
| 68 | グローバルネットワーク共創委員会 | 小田 めぐみ | | | | | | | | | | | | | | 産休 |
| 69 | グローバルネットワーク共創委員会 | 乙守 泰蔵 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 33% | |
| 70 | グローバルネットワーク共創委員会 | 加藤 守 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | |
| 71 | グローバルネットワーク共創委員会 | 神田 崇志 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 75% | |
| 72 | グローバルネットワーク共創委員会 | 齋藤 竜二 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 67% | |
| 73 | グローバルネットワーク共創委員会 | 平川 廣輝 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 89% | 新入会員 |
| 74 | グローバルネットワーク共創委員会 | 星山 剛 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 92% | 監事 |
| 75 | グローバルネットワーク共創委員会 | 村社 司 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 50% | |
| 76 | グローバルネットワーク共創委員会 | 山本 祥次 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 87% | 新入会員 |
| 77 | グローバルネットワーク共創委員会 | 吉本 大吾 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 75% | |
| 78 | 地域課題解決委員会 | 森田 栄作 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 100% | 委員長 |
| 79 | 地域課題解決委員会 | 三芥木 真悟 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 58% | 副委員長 |
| 80 | 地域課題解決委員会 | 川口 翔馬 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 75% | 総括幹事 |

一般社団法人 宮崎青年会議所 褒賞受賞一覧表

| | | | |
|---------------|------------------|---------|----|
| 1969年 (S 4 4) | 経済活動最優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1970年 (S 4 5) | 優秀社会開発賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1971年 (S 4 6) | 最優秀指導力開発賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1973年 (S 4 8) | 広報活動努力賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1974年 (S 4 9) | 特別部門優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1976年 (S 5 1) | 交通開発推進優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1977年 (S 5 2) | 特別部門最優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1978年 (S 5 3) | 社会開発推進優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1980年 (S 5 5) | 特別部門最優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1985年 (S 6 0) | 地域活性化推進優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1992年 (H 4) | 特別事業賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| | インゼルス大賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| | インゼルス大賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| | インゼルス大賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| | インゼルス大賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| | インゼルス大賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1993年 (H 5) | 環境運動推進賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1994年 (H 6) | 国際協力推進最優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1996年 (H 8) | 人づくり部門優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1997年 (H 9) | 国際化推進賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 1998年 (H 1 0) | 優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2000年 (H 1 2) | 優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2001年 (H 1 3) | 優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2002年 (H 1 4) | 優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2003年 (H 1 5) | 優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2004年 (H 1 6) | 優秀賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2014年 (H 2 6) | 部門賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2015年 (H 2 7) | 部門賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2016年 (H 2 8) | 部門賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2021年 (R 3) | 人財育成部門賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2023年 (R 5) | 最優秀LOM国際協カプログラム賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2023年 (R 5) | 最優秀LOM国際協カプログラム賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2024年 (R 6) | 最優秀LOM国際協カプログラム賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2025年 (R 7) | 最優秀拡大LOM賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |
| 2025年 (R 7) | 会頭特別賞 | 九州地区協議会 | 褒賞 |

姉妹JC一覧表

締結日

- 榎原青年会議所
〒634-0063 榎原市久米町652-2榎原商工経済会館2F
TEL:0744-28-4800・FAX:0744-28-4848 1996. 10. 25
- The PORT JUNIOR CHAMBER
5F-3 No. 189, Chi Hsien 2nd. Rd, Kaohsiung Taiwan, R. O. C
TEL:(886)07 286 5662 1981. 9. 24
- Quezon City Capitol JUNIOR CHAMBER
Burnardo Park, EDSA Quezon City, Philippines
Office of Councilor Winnine "Winnine" Castelo, 2/F Quezon City Hall
TEL:(+63) 927 646 0088 1981. 7. 24
- MARINE JUNIOR CHAMBER
112 Middle Road, #04-1 Midland House, Shingapore 188970
TEL:(65)337-4307・FAX:(65)339-6143 1974. 10. 20

一般社団法人宮崎青年会議所がスポンサーJCとなって設立されたJC

| 承認年月日 | 宮崎JC理事長名 |
|-----------------------|-------------------|
| (S 2 8) 1953年 2月 7日 | 福岡 JC 35号 岩切 省一郎 |
| (S 2 8) 1953年 2月 7日 | 長崎 JC 36号 岩切 省一郎 |
| (S 2 9) 1954年 7月 7日 | 鹿児島 JC 57号 岩切 省一郎 |
| (S 3 0) 1955年 4月 26日 | 熊本 JC 66号 三重野 良輔 |
| (S 3 2) 1957年 12月 14日 | 延岡 JC 134号 三重野 良輔 |
| (S 3 5) 1960年 2月 20日 | 日南 JC 180号 東 哲也 |
| (S 3 9) 1964年 7月 25日 | 都城 JC 265号 甲斐 定幸 |
| (S 4 8) 1973年 10月 17日 | 西都 JC 541号 百野 弘 |

一般社団法人宮崎青年会議所 2026年度会員分布表

| 年次 | 2025(R7) | 2024(R6) | 2023(R5) | 2022(R4) | 2021(R3) | 2020(R2) | 2019(H11) | 2018(H10) | 2017(H29) | 2016(H28) | 2015(H27) | 2014(H26) | 2013(H25) |
|----------------------|-------------------------------|---|--------------------------|--------------------------|-------------------------|------------|-------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1986年生 (昭和61年) | 年入会 | 青藤松 井中元 翔周友 太甲廣 吉田隆 田田電 小野夏 野原夏 前 | 田藤一 郎美二 史希紀 | 岩上村 中光貴 大生田 田生 | 大給良 貴祥平 貴伸吉 孟也 | 榎塚健 太樹臣 | 淺野龍 野宏輝 山崎隆 太郎 | 遠野健 拓人 | 藤智智 子 | 山口俊 樹 | 乙守森 藏 | 後藤 藤太 | |
| 1987年生 (昭和62年) | 谷野山 優勇祥 本良祥 次輔太 理 | 朽清吉 木水本 大裕大 匡宏八 田京子 | 三井木 實悟 | 井中權 村業山 分原田 森佐伯 | 手村業 友哲也 大樹健 作 | | | 伊高智 智子 | 浮穂山 里山 | | | | |
| 1988年生 (昭和63年) | 高橋良 中島良 原純太 理 | 村匡宏 大八 | 松田隆 治門竹 分原田 森佐伯 | 大沙栄 作 | 原川隆 臣 | | | 長友慶 一郎 | | | | | |
| 1989年生 (S64年/H元年) | 清貴 仁 | 赤金長 崎丸井 将勇健 太 | 木原瑛 敬 | 久松大 夢 | | | | 甲斐智 大 | | | | | |
| 1990年生 (平成2年) | 小野一 陸拓啓 尾本真 佑 | 加山藤 倫 | 若翼敬 久 | 井本め ぐみ | | | | 内門洋 輔 | | | | | |
| 1991年生 (平成3年) | 齊藤兆 健柳由 中一仁 新藤 | 井河田 貴友裕 樽樹也 岩下切 公南紀 聡 | | 中門凌 太郎宏 秀祐 | | | | 松本恵 宏 | | | | | |
| 1992年生 (平成4年) | 齊藤謙 太 | 黒藤木 元 | 山崎太 郎志宏 介 | | | | | | | | | | |
| 1993年生 (平成5年) | | 片地昭 成 | 黒木箱 小野倉 藤電二 香啓一 | 長岡野 海人也 | | | | 藤元克 希 | | | | | |
| 1994年生 (平成6年) | 大長久 友清千 夏 | 野間祐 介小園 敏 | 黒木箱 小野倉 藤電二 香啓一 | | | | | | | | | | |
| 1995年生 (平成7年) | 赤岩本 福間一 健木翼 一健 | 中馬原 場達功 山本次 郎 | 河野早 稲田佑 伊 | | | 久保田 真吾 | | | | | | | |
| 1996年生 (平成8年) | | 松木ほ の秀か 義 | 河野野 紗 | 伊比井 翔 | | | | | | | | | |
| 1997年生 (平成9年) | 平川廣 輝 | 安藤浩 貴 | | | | | | | | | | | |
| 1998年生 (平成10年) | 祝出侑 果 | 坂本将 太郎 | | | | | | | | | | | |
| 1999年生 (平成11年) | 原田健 太 | | | 福島大 地 | | | | | | | | | |
| 2000年生 (平成12年) | | 福留京 介 | | | | | | | | | | | |
| 2001年生 (平成13年) | 三田拓 輝 | | | | | | | | | | | | |

歴代理事長(1951年～2025年)

| | | | | | |
|---------|-------------------------|------------|---------|----------|-----------|
| 初代理事長 | (昭和26年10月 ～昭和27年12月) | 岩切省一郎 (故人) | 第38代理事長 | (平成元年度) | 野崎伸一 |
| 第2代理事長 | (昭和28年度) | 〃 | 第39代理事長 | (平成2年度) | 藤元良一 |
| 第3代理事長 | (昭和29年度) | 〃 | 第40代理事長 | (平成3年度) | 植松孝一 |
| 第4代理事長 | (昭和30年度) | 三重野良輔 (故人) | 第41代理事長 | (平成4年度) | 金丸嘉郎 (故人) |
| 第5代理事長 | (昭和31年度) | 〃 | 第42代理事長 | (平成5年度) | 佐藤嘉信 |
| 第6代理事長 | (昭和32年度) | 〃 | 第43代理事長 | (平成6年度) | 坂下孝二 |
| 第7代理事長 | (昭和33年度) | 東哲也 (故人) | 第44代理事長 | (平成7年度) | 日高大仲 (故人) |
| 第8代理事長 | (昭和34年度) | 〃 | 第45代理事長 | (平成8年度) | 児玉和博 |
| 第9代理事長 | (昭和35年度) | 金丸一平 (故人) | 第46代理事長 | (平成9年度) | 竹井崇利 |
| 第10代理事長 | (昭和36年度) | 塩見一郎 (故人) | 第47代理事長 | (平成10年度) | 久保裕 |
| 第11代理事長 | (昭和37年度) | 清水博基 (故人) | 第48代理事長 | (平成11年度) | 中武功見 |
| 第12代理事長 | (昭和38年度) | 村川健 (故人) | 第49代理事長 | (平成12年度) | 金丸宜裕 |
| 第13代理事長 | (昭和39年度) | 甲斐定幸 (故人) | 第50代理事長 | (平成13年度) | 西田英敏 (故人) |
| 第14代理事長 | (昭和40年度) | 橋本善吉 (故人) | 第51代理事長 | (平成14年度) | 土屋広明 |
| 第15代理事長 | (昭和41年度) | 山脇啓作 (故人) | 第52代理事長 | (平成15年度) | 兵頭健一 |
| 第16代理事長 | (昭和42年度) | 松本武夫 (故人) | 第53代理事長 | (平成16年度) | 弘中康之 |
| 第17代理事長 | (昭和43年度) | 江田泰通 (故人) | 第54代理事長 | (平成17年度) | 廣川拓也 |
| 第18代理事長 | (昭和44年度) | 日高照雄 (故人) | 第55代理事長 | (平成18年度) | 松田真義 |
| 第19代理事長 | (昭和45年度) | 菊池昌治 (故人) | 第56代理事長 | (平成19年度) | 河東太浩 |
| 第20代理事長 | (昭和46年度) | 池田豊繁 (故人) | 第57代理事長 | (平成20年度) | 中村隆美 |
| 第21代理事長 | (昭和47年度) | 板東英保 (故人) | 第58代理事長 | (平成21年度) | 松田慎介 |
| 第22代理事長 | (昭和48年度) | 百野弘 (故人) | 第59代理事長 | (平成22年度) | 岩切崇徳 |
| 第23代理事長 | (昭和49年度) | 後藤友幸 | 第60代理事長 | (平成23年度) | 岡田憲明 |
| 第24代理事長 | (昭和50年度) | 小田真愛 (故人) | 第61代理事長 | (平成24年度) | 志多充吉 (故人) |
| 第25代理事長 | (昭和51年度) | 外山三博 | 第62代理事長 | (平成25年度) | 佐藤公一 |
| 第26代理事長 | (昭和52年度) | 徳永定俊 | 第63代理事長 | (平成26年度) | 中原伸博 |
| 第27代理事長 | (昭和53年度) | 江淵京太郎 | 第64代理事長 | (平成27年度) | 大平紘史 |
| 第28代理事長 | (昭和54年度) | 志多克彦 (故人) | 第65代理事長 | (平成28年度) | 大野勇 |
| 第29代理事長 | (昭和55年度) | 日高偕 | 第66代理事長 | (平成29年度) | 川越道貴 |
| 第30代理事長 | (昭和56年度) | 斉藤一 (故人) | 第67代理事長 | (平成30年度) | 長友剛 |
| 第31代理事長 | (昭和57年度) | 戸高裕之 (故人) | 第68代理事長 | (令和元年度) | 野崎偉世 |
| 第32代理事長 | (昭和58年度) | 金丸一夫 (故人) | 第69代理事長 | (令和2年度) | 黒田福太郎 |
| 第33代理事長 | (昭和59年度) | 大園英治 | 第70代理事長 | (令和3年度) | 川越英和 |
| 第34代理事長 | (昭和60年度) | 川越宏樹 | 第71代理事長 | (令和4年度) | 植松剛史 |
| 第35代理事長 | (昭和61年度) | 田中啓二郎 (故人) | 第72代理事長 | (令和5年度) | 川越大輔 |
| 第36代理事長 | (昭和62年度) | 磯部泰由 (故人) | 第73代理事長 | (令和6年度) | 河野幸治 |
| 第37代理事長 | (昭和63年度) | 沼口浩基 (故人) | 第74代理事長 | (令和7年度) | 野村翔悟 |

物故會員

2026年1月3日現在

年樹匡徹美雄光郎男允之郎一作彦喜三夫晃基嗣平郎夫貴穀登通一雄郎彦治介朗市吉夫

廣美 宏照俊一敏孝裕十 啓昭重良武 浩興 二龍 多 泰健四 二克敬裕三孝充一

本原 柳郡 玉高澤見脇友高田 藤 脇多元谷本 須 口山 地 川下 田 下 田山坂 中 啓 多田崎高畑多丸

藤平小下児日古塩井長戸増齋山志萩布松那沼大菊荒松牧吉松江星小田志島松日桑志金

健助三治幸夫二平一明郎郎基典由康彦博修彦輔明廣大福一市俊善郎靖一久一仲允之郎平旨郎

之宗 昌定忠忠一利雅一 知 博忠泰博昭 芳良 一通季 恒 孝健正延 一章絃朋絃大 宣嘉恭泰 一

川 虎殿 池斐部野丸永口 嘉 伊 村 水見部本吉 口水 多 重 川野村 斐城原良 原 賀野城玉高 木 休丸谷山 中 寬

越古 池斐部野丸永口 嘉 伊 村 水見部本吉 口水 多 重 川野村 斐城原良 原 賀野城玉高 木 休丸谷山 中 寬

村川大菊甲綾河金徳山困中清高磯宮住山清志三宮河田李甲岩松奈指古川岩児日鈴道金油富田

保雄洋輔彦男行市一一介保一郎吉弘教明之雄也夫郎二郎男弘郎雄三一絃昭俊愛收朗信敏憲彦

幾 信秀範智寛保欽健英健 一喜武良弘康孝 哲 滿 一庸三伸 三幸章常茂利 眞 四達英幸邦

高 脇川 高多村田元本田田東山 山 穀 毅 一喜武良弘康孝 哲 滿 一庸三伸 三幸章常茂利 眞 四達英幸邦

戸井江日志中吉藤山杉豊坂小丸橋指牧矢山押東黒岩江弘堀百村村中日竹杉鈴小鳥村池西小志

公益社団法人日本青年会議所 2026年度 基本資料(案)

基本計画 (基本理念・基本方針)

基本理念

真の心が生み出す
幸せな国 日本へ

基本方針

1. 希望が織りなす幸せな社会を描く
2. 国際社会と共鳴する日本の力
3. 地域から紡ぐ日本の未来デザイン
4. 魅力ある組織が照らすJCブランドの輝き
5. 運動の効果を最大化するブランドマネジメントと組織運営

公益社団法人日本青年会議所 2026年度 基本資料(案)

事業計画

[1] 日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIとともに連携して行う運動・事業

1. 幸せな社会の実現に向けた運動の推進
2. カーボンニュートラルの実現に向けた運動の推進
3. 運動の効果を最大化するブランドマネジメント戦略の推進

[2] 日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIや各国青年会議所に対して、参加や参画など協力を依頼して行う事業

1. 京都会議 【1月】
2. サマーコンファレンス 【7月】
3. 全国大会神戸大会 【10月】
4. JCI JAPAN TOYP
5. JCIアカデミー
6. AWARDS JAPAN
7. 国際協力
8. 各種視察団・使節団の派遣

[3] JCIが主催し、日本青年会議所が連携して行う運動・事業

1. JCI TOYPへの申請 【5月】
2. JCI CYEへの申請 【5月】
3. JCI ASPAC(日本/新潟) 【6月】
4. JCI World Congress(フィリピン/クラーク) 【10月-11月】
5. JCI AWARDSへの申請

[4] 日本青年会議所が、地区協議会と連携する事業

1. 有事に備えた災害ネットワークの強化に関する事業
2. 第4回全国高校生政策甲子園に向けた地区予選
3. JCカップU-11少年少女サッカー大会に向けた地区予選
4. 地区が実施するLeader's Academy

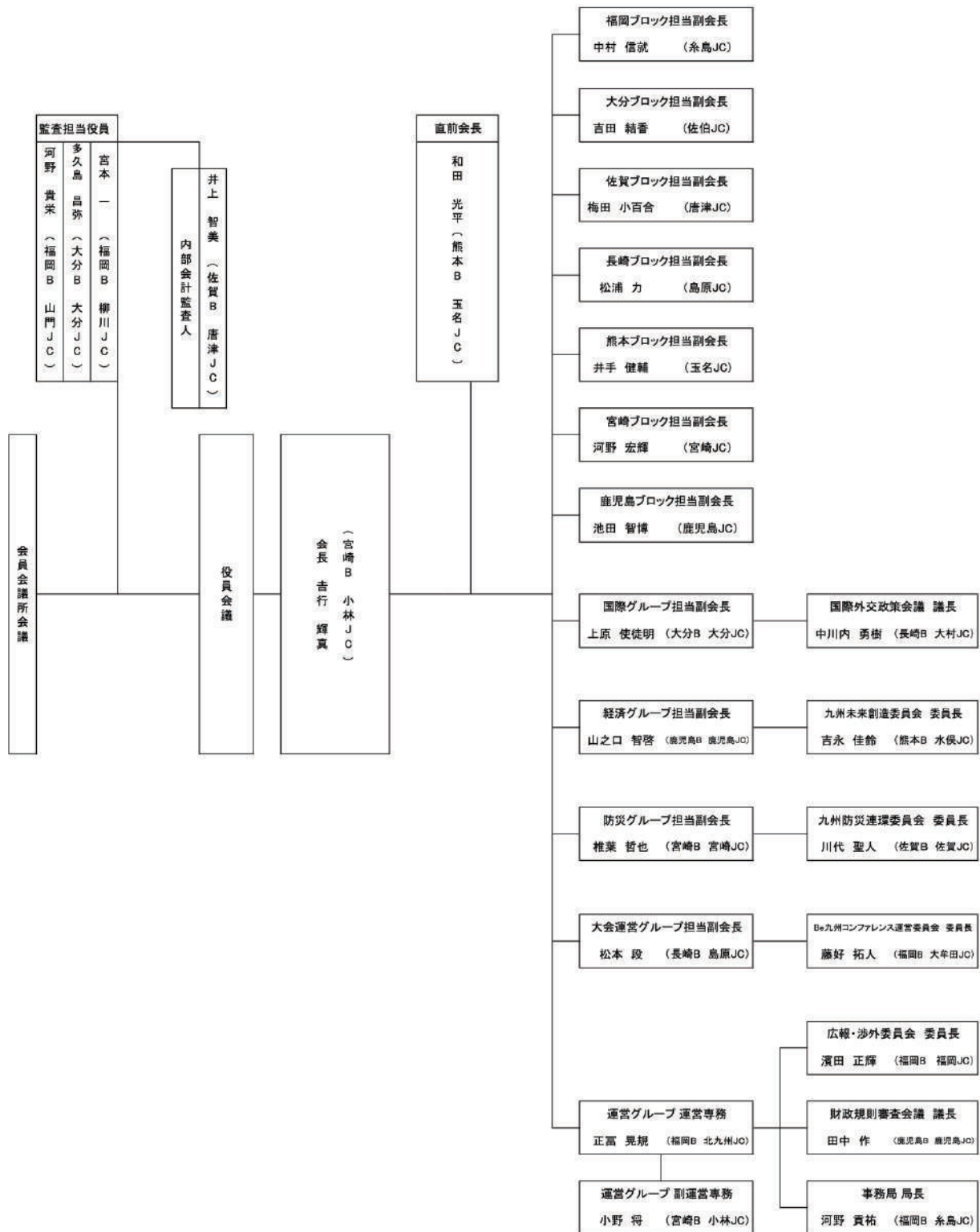
[5] 日本青年会議所が、ブロック協議会と連携する事業

1. FCP(Family Continuity Plan:家族継続計画)の導入に向けた運動の推進
2. 日常から始めるカーボンニュートラル推進事業
3. ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用

| | |
|--------------------------|---|
| <p>担当する地区の 幸せな社会</p> | <p>新たな可能性を見出し 幸せな九州の創造</p> <p>九州地区は、アジアのゲートウェイとしての発展が見込まれる地域であること、そして近年日本人の減少に対し外国人の社会増加という結果が出ていることから、国際交流による観光や宿泊などの新たな産業が発展すること、そのなかで多様な国々の方々と理解しあいながら、これまでの伝統、文化や歴史を大事にしながらも共生することができる地域にしなければならないと感じております。また、南海トラフ巨大地震や台湾有事等を抱えている地域でもあることから、自助、共助、公助の精神をさらに育んでいき九州の幸せな社会を実現しなければならないと感じます。</p> |
| <p>地区協議会の役割</p> | <p>地区協議会は広域な視点を持ち、県あるいは国を跨いだ調査研究により、その地域一つひとつにとって有益で、良質な情報の提供を行うとともに、九州地区内のブロック協議会、LOM がそれぞれ連携することで、各地域における問題や課題を解決していくことで明るい豊かな社会の実現を目指します。また、九州というブランドを力強く全国に発信していくことで、九州の各地域の認知度を向上させます。さらに、大規模災害発災時に迅速な復興支援と連絡調整を担い、広域な支援を行うことで、有事の際に迅速な復旧、復興に繋がります。地区内のメンバー同士の交流と連携を促進し、より推進力を高める役割を果たします。</p> |
| <p>地区連携事業 (政策手法)</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 有事に備えた災害ネットワークの強化に関する事業の企画・実施 2. 第4回全国高校生政策甲子園に向けた地区予選の企画・実施 3. JC カップ U-11 少年少女サッカー大会に向けた地区予選の企画・実施 4 Leader's Academy の実施 |
| <p>地区独自の 事業</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1.九州内のインバウンド受け入れ強化の企画と運動の実施 <p>【背景】</p> <p>九州はアジアの玄関口(ゲートウェイ)に位置付けられております。コロナ前からすると外国人延べ宿泊者数は30%増加しておりますが、各県で見ると回復度合いに大きな差があり需要の偏在傾向が見られます。また人口減少が続く九州において、外需獲得型経済の構築が必要不可欠です。未来の責任を負う青年経済人である我々が76LOMのメンバーとともに九州内のインバウンドをさらに活性化するとともに、積極的に国際の機会に触れ地域単位での密接な関係が必要です。</p> <p>【目的】</p> <p>グローバル人材の育成及び九州のインバウンド受け入れ態勢の強化を目的とします。</p> <p>【手法】</p> <p>九州のインバウンドが全体的に拡がりを見せるためには、異文化理解を進めるとともに九州に住み暮らす人々が当たり前と感じている独自の文化を掘り起こし九州の発信力を高める必要があります。近畿地区協議会が毎年実施するGTSの連携や講演会を通じ、グローバルな視点を養い自分たちの住み暮らす地域の良さを再認識するとともに、海外との友情を育み九州全体のグローバル人材の育成を促進します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2.九州の可能性を探り未来を考える事業の企画・実施 <p>【背景】</p> <p>日本では過去に道州制の議論が過熱した時期がありました。現在でも九州地方知事会や行政の勉強会で議題にあがるなど、水面下では議論が続けられております。時代の移り変わりの速さ、災害の激甚化等、これまで以上にスピード感を持って取り組む必要があります。</p> <p>【目的】</p> <p>九州に新たな可能性を見出すことを目的とします。</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>【手法】 現在の中央集権システムでは、この激変する国際社会への対応や東京一極集中の是正、個性豊かな地域社会の形成、少子高齢化・人口減少社会への対応など、新しい時代の諸課題に対する迅速・的確な対応をするためにも、今後の九州の在り方を考えていかなければなりません。多くの可能性があるなかで、道州制という切り口から九州の可能性を調査し、諸課題に対応するためになぜ必要なのか、別な可能性についても模索し発信することで、未来を考える意識を醸成するとともに、メンバー及び市民に九州の新たな可能性を提案します。</p> |
| | <p>3. 九州コンファレンス 2026IN 中津大会の実施</p> |
| | <p>【背景】 全国の平均在籍年数が3年となり、九州地区内のアカデミーメンバーの比率が50%であることから、九州地区協議会がどのような歴史があり、どのような事業・運動・活動を行っていて、どのような役割を担ってきたかということが伝わっていないという課題があります。</p> <p>【目的】 九州地区協議会のこれまでの事業・運動の歴史も踏まえて運動の成果を発信することを目的とします。</p> <p>【手法】 九州内の半数以上がアカデミーメンバーとなった現在において、九州コンファレンスを通じ九州内の連携がさらに強固になる大会を、主管を務める中津青年会議所とともに創りあげてまいります。九州地区協議会での活動・運動を通じ培った能力を九州内メンバー及び一般市民に発信し九州の秘めたる可能性を掘り起こしてまいります。また、2026年の九州コンファレンスを通じ、この大会の意義、目的及び地域益、主管益、参加者益、主催者益、社会益の5益を伝え、2027年以降も持続可能な九州コンファレンスにまいります。</p> |
| <p>ブロック連携 事業を促進する 具体的手法</p> | <p>1.FCPの推進に関する情報提供と支援 2.アカデミープログラムの選定・提案に関する支援 3.全国一斉事業に対するサポート</p> |
| <p>地区による LOM支援の 実施内容</p> | <p>1.LOMの運動や事業の集約・発信 2.JCセミナーの実施 3.ブロック協議会との総合調整</p> |

公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会 2026年度組織図

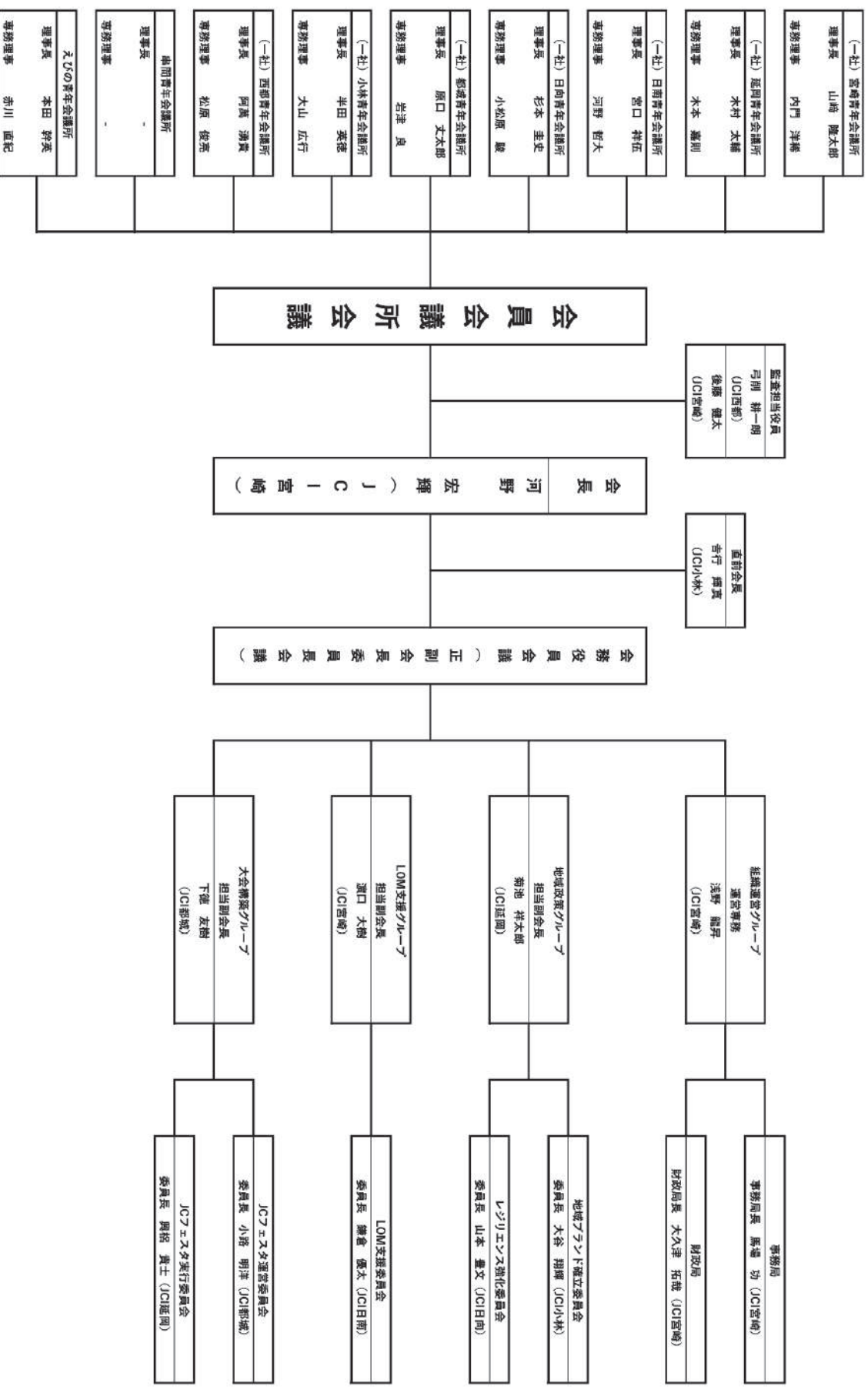


| | |
|----------------------------|---|
| <p>ブロック協議会の 幸せな社会</p> | <p>真の心でウェルビーイングな宮崎の未来へ 幸せな社会をウェルビーイングな状態であると定義します。ポジティブ心理学の創始者であるマーティン・セリグマンが提唱した、ウェルビーイングを高めるための5つの要素、ポジティブな感情、物事への積極的な関わり、他者との良い関係、達成、人生の意味や意義の自覚、は青年会議所活動で得られるものであり、それらを高めることによってメンバーや地域にワクワクする存在となる必要があります。宮崎ブロック協議会並びに各 LOM が起こす運動に宮崎県民、市民を巻き込むことでウェルビーイングが高まった状態となっている社会を創造します。</p> |
| <p>ブロック協議会の 役割</p> | <p>ブロック協議会の主たる役割は県内 LOM の総合調整機関であり、また LOM 支援、本会及び地区協議会との連絡調整であると考えます。県内 LOM の総合調整については 2024 年度より開始した理事長ミーティングを有効活用し、情報の共有を行います。LOM 支援については会員拡大支援、ブランディング支援を中心としつつ、単独で事業構築ができない LOM と一緒にブロック連携事業をはじめとした事業構築を行っていきます。それに加え、日本青年会議所、地区協議会が提供する情報を各 LOM の実情に合った提供を行い、効果的な発信を行ってまいります。</p> |
| <p>ブロック連携事業 (政策手法)</p> | <p>1. FCP(Family Continuity Plan:家族継続計画)の導入に向けた運動の推進 地域の防災意識向上には社会の最前線である家庭での防災意識の向上は必要不可欠です。そのためにはまず、災害に見舞われ、平常時とは異なる精神状態となった場合であっても、家族の安全を確保し、防災、減災のための行動をとることができるようにFCPを策定する必要があります。そこで、子どもにFCPの重要性を伝えていただき、家庭に持ち帰り地域の実情にあったFCPを作成していただきます。また、FCPの策定段階で地域の防災状況を把握していただくことにより全国的に更なる防災意識の向上に寄与する必要があります。これに対して、2025 年度日本青年会議所本会レジリエンス強化委員会が実施した動画で雨トレをブロック会長公式訪問例会などの機会を活用し、会員会議所のメンバーに実施していただく形で、家庭への落とし込みを図ります。</p> <p>2. 日常から始めるカーボンニュートラル推進事業 外部の視点を取り入れ、日常から始めるカーボンニュートラル推進事業を展開し、その成果を全国から集約することで、運動を一層加速させ、日本一カーボンニュートラルを推進する団体を目指します。それに向けて、2020 年 10 月の 2050 年カーボンニュートラル宣言を受けて設置された「国・地方脱炭素実現会議」において、2021 年 06 月に取りまとめられた、地域脱炭素ロードマップがあり、これは地域における暮らし、社会分野を中心に、生活者目線での脱炭素社会実現に向けた工程と具体策を示したものです。このなかで、環境省が公開しているゼロカーボンアクション 30 を活用して、認知させていきます。</p> <p>3. ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用支援 ブロック協議会と連携し、全国のアカデミー生に適用でき、成長につながる育成カリキュラムの運用支援を行い、共通の価値観をもったリーダーたる人財を育成することで、組織を前進させることを目指します。それに向けて、単にセミナーを行うだけではなく、複数回の講義を通して、実行計画書をベースとした背景と目的の掘り下げ方から事業構築に至るまでの一連の作業を体験してもらうアカデミー育成を実施します。</p> |
| <p>ブロック協議会 独自の事業</p> | <p>1. JC ブランド確立へ向けたブランドマネジメントの推進 【背景】 宮崎県内の LOM には独自のホームページを持つことができていない、SNS による発信が十分でないなど、青年会議所としてのブランディングを十分に行えていないという問題があります。これは所属人数や</p> |

| |
|--|
| <p>規模感のばらつきが原因であり、全ての LOM が宮崎県民に認知される状態にする必要があります。</p> <p>【目的】 県内 LOM の運動発信をブロック協議会として支援または代行できる体制をつくることで、会員会議所会議の宮崎県民に対する認知を拡大することを目的とします。</p> <p>【手法】 AISCEAS マーケティングの考え方を基本とし、県内 LOM が行う主な運動を発信する LP を作成のうえ SNS 広告により宮崎県内の会員拡大対象者の年齢をターゲティングして配信することで、認知から行動、入会までの導線を創ります。従って、LP 内には入会問い合わせ機能を持たせませす。</p> |
| <p>2. 宮崎県内のさらなるインバウンド誘致に関する調査・研究・発信</p> |
| <p>【背景】 インバウンドによる経済効果が謳われるなかにあつて、宮崎県は九州内でワースト 2 位であるという問題があります。しかし、2025 年度 4 月の外国人宿泊者の伸び率は前年度比+58.3%と、全国 5 位の伸び率です。この好転基調を機と捉え、さらなるインバウンド誘客に向けて地域の魅力を発掘、ブラッシュアップを行い、外国人誘客に繋げていける状態にする必要があります。</p> <p>【目的】 外国人誘客に向けた地域の魅力発掘、ブラッシュアップを産官学連携で行える体制を整えることでインバウンドの増加に寄与することを目的とします。</p> <p>【手法】 2025 年度宮崎ブロック協議会が主導して立ち上げた、高付加価値インバウンド推進協議会の機能を整えると同時に、宮崎県や各大学とも連携できる状態を構築し、外国人誘客を一体となって行える状況を構築します。</p> |
| <p>3. 会員拡大支援</p> |
| <p>【背景】 宮崎県内 9LOM のうち、2025 年度の期首会員数が 10 名を下回っている LOM が 5 つあり、その存続が危ぶまれるという問題があります。この原因として会員拡大に関するノウハウが蓄積されていないことが挙げられ、全ての LOM が会員拡大活動に邁進できる状態にする必要があります。</p> <p>【目的】 宮崎ブロック協議会として県内各 LOM のニーズに合った会員拡大に対する支援体制を整えることで、各 LOM の拡大人数を増加させることを目的とします。</p> <p>【手法】 拡大担当者未設置 LOM、または所属人数から十分な拡大活動を行えない LOM に対して、日本青年会議所本会より発行された拡大マニュアルをベースとして、リストアップから訪問、クロージングまでを一元的にサポートします。</p> |
| <p>4. JC フェスタ 2026in 延岡の実施</p> |
| <p>【背景】 地域の魅力を再度宮崎県民に認知していただき、さらに県内 LOM 並びに宮崎ブロック協議会の運動を発信することで地域のウェルビーイングな未来へ向けた機会を創出する必要があります。</p> <p>【目的】 宮崎県及び延岡市の魅力を市民や当日参加された方々に発信し、主管地域が輝きを見せ、地域益を感じることのできる JC フェスタ 2026in 延岡を開催することを目的とします。</p> |

| | |
|-------------------------------------|--|
| | <p>【手法】</p> <p>ファンクションやフォーラムを通じて、各地域や自治体にウェルビーイングな地域のための学びを持ち帰ってもらい、それぞれが活動するエリアでも地域の課題解決のために実施できるような内容を揃えることで、地域課題解決に向けた取り組みを進めるための手法とします。また、今年度は延岡市で開催されることから、延岡市の新たな魅力を創出し、地域の発展に寄与する機会とします。</p> |
| <p>ブロックによる LOM 支援の 実施内容</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 会員拡大支援の企画、実施 2. LOM の会員拡大情報の収集、分析 3. アカデミーメンバーの全体教育 4. 要支援 LOM の支援 5. 少人数 LOM への事業構築支援 |
| <p>前年度より 引き継いだ 重点連携 LOM</p> | <p>LOM 名:一般社団法人日南青年会議所 LOM 名:一般社団法人西都青年会議所 LOM 名:串間青年会議所 LOM 名:えびの青年会議所</p> |

公益社団法人日本青年会議所 九州地区宮崎ブロック協議会 2026年度組織図



一般社団法人宮崎青年会議所

宮崎県宮崎市松山1丁目12番7号大春ビル3F

TEL.0985-28-2522 FAX.0985-28-2466

<https://www.miyazaki-jc.or.jp/>

E-mail : info@miyazaki-jc.or.jp

編集 2026年度 総務委員会

| | | | |
|------|-------|----|-------|
| 委員長 | 日高 優美 | 委員 | 中本 竜史 |
| 副委員長 | 加藤 守 | 委員 | 朴 熙哲 |
| 運営幹事 | 平川 廣輝 | 委員 | 福留 京介 |
| 委員 | 佐伯 康成 | 委員 | 松本 恵宏 |
| 委員 | 長友 千夏 | 委員 | 若菜 敬匡 |